

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

【北海道】

自治体名：北海道

担当課名：北海道教育庁学校教育局部活動改革推進課

電話番号：011-206-6067（E-mail：kyoiku.bukatsu@pref.Hokkaido.lg.jp）

1.自治体の基本情報



基本情報

面積 (2024.1.1現在)	83,422 km ²
人口 (2024.12末現在)	5,045,338 人
公立中学校数 (札幌市立を除く) (2024.4.1現在)	440 校
公立中学校生徒数 (札幌市立を除く) (2023.5.1現在)	71,364 人
部活動数 (2023.12.1現在)	2,235 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

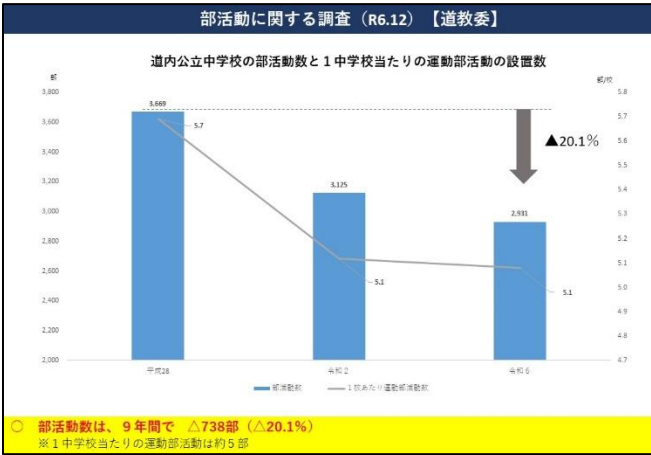
地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

少子化における生徒数減、部活動数減、指導や大会運営等、教員の業務負担などが大きな課題となっており、学校単位で子どもたちのスポーツ・文化芸術環境を継続的に支えていくことは困難な状況にある。

生徒の望ましい成長のために、部活動の教育的意義を継承し、地域の持続可能で多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じたスポーツ・文化芸術環境の最適化を図り体験格差を解消するとともに、学校における働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図ることが重要である。

複数の市町村で、地域の実情に応じた地域移行の実践を行うことで、好事例や課題を収集・検証し、多様な地域性を持つ広域な北海道におけるモデルとして、各市町村と共有していくことで全道の取組を促進する。

また、部活動を地域で行うという認識が道民の間で未だ広く認知されていない状況もあるため、地域移行の必要性やそのねらいを丁寧に説明し、理解を促進することも重要である。



部活動の地域移行に係る市町村の取組状況調査 (R6.12) 【道教委調査】

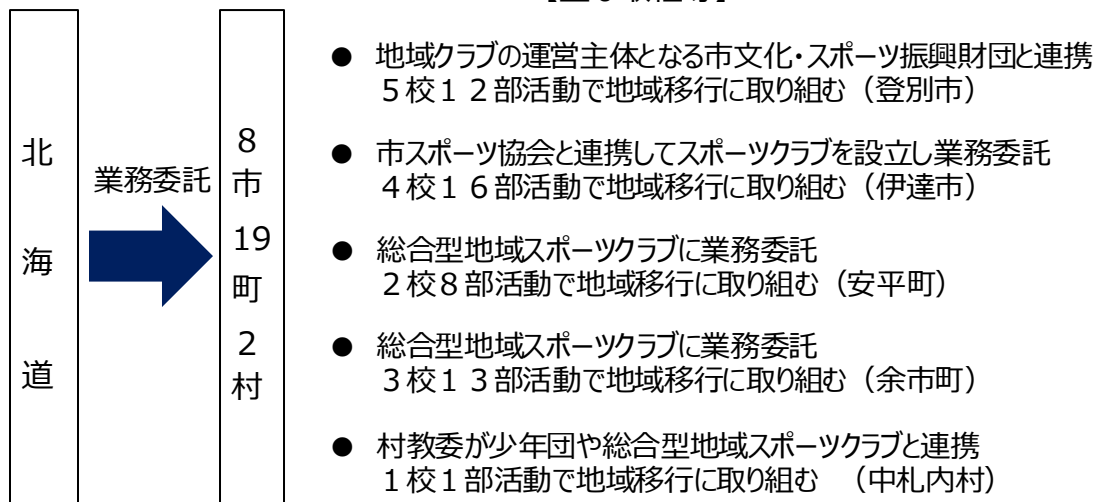


2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）

【主な取組等】



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（部活動改革推進課）

- ・教育局サポートチームを通じた市町村の取組の進捗管理、助言等の支援、アドバイザー（コーディネーター）の派遣による支援、人材バンクの運用、市町村間の調整、広報・啓発、官民連携による支援の推進等

◎首長部局

- ・スポーツ振興課：総合型地域SC設立、運営支援、指導者資格取得・研修受講の促進、ハラスメント防止の啓発
- ・官民連携推進局：官民連携で実施する取組に関する技術的助言や民間企業等との連絡調整等

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月～令和7年3月（通年）
 - ・教育局サポートチームを通じた市町村の取組の進捗管理、助言等の支援
 - ・アドバイザー（コーディネーター）の派遣による市町村への助言等の支援
 - ・人材バンクの運用（札幌市との連携や民間企業、大学等への広報等を含む。）
 - ・市町村間の調整
（複数市町村が行う検討に係る協議の場の設定等）
 - ・地域移行に関する広報・啓発
 - ・官民連携による地域クラブ活動支援体制の構築・推進
- 部活動改革推進本部会議（年2回開催：8月、1月）
教育局サポートチームから報告のあった好事例や課題を整理し、関係部署が横断的に連携、施策を検討
- 部活動・地域クラブ活動関係者会議
（旧：地域クラブ活動推進協議会、年2回開催：10月、1月）
道内関係団体の代表者等が出席し、実証地域の事例紹介等を通じて、情報共有や意見交換を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

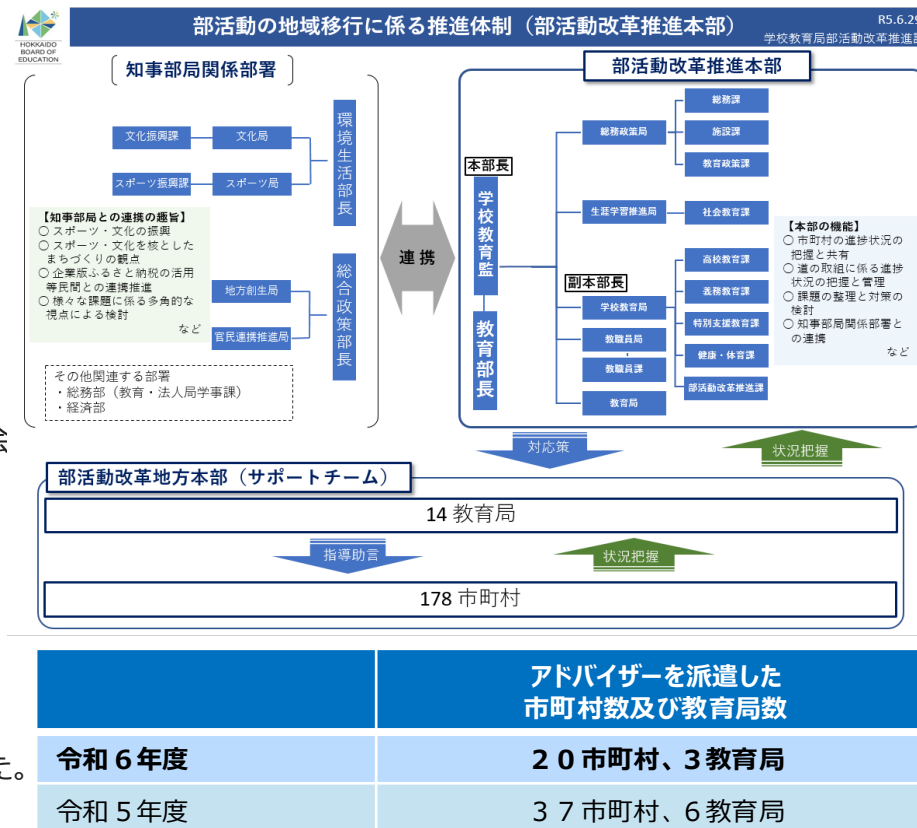
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・多角的な視点から取り組むべき課題に対して、庁内横断的に取り組む体制構築のため「部活動改革推進本部」会議を年2回開催。
- ・道内14地域の各教育局に設置したサポートチームが市町村の進捗管理を行いながら好事例を把握し普及するほか、必要に応じて助言や支援を行う。
- ・「部活動の在り方検討支援アドバイザー」を市町村や14教育局に派遣し、関係者や地域住民に対する事例紹介や助言を実施。

取組の成果

- ・庁内関係部署で構成する部活動改革推進本部を年2回（8月、1月）開催し、市町村の進捗状況の把握や課題の整理を行うとともに、知事部局の関係部署と連携し地域移行に係る推進体制を構築することができた。
- ・市町村が主催する地域説明会や検討会に地域スポーツの実践経験者や大学教授等（6名）をアドバイザーとして派遣し、地域における個別の会議に対し、解決に向けた助言や提案を行うとともに、地域の実情を踏まえた検討や取組を進めるため、参考となる先進事例を提供することができた。



今後の課題と対応方針

- ・部活動改革推進本部において、より一層知事部局との連携を図るとともに、道内14カ所の教育局に設置したサポートチームの機能を充実させ、市町村の課題に応じた助言や情報提供機能の強化を図る。
- ・アドバイザー派遣事業に関する一層の周知を行い、特に地域移行の取組が遅れている市町村における活用の促進を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・令和5年3月に運用を開始した「ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンク」を積極的に周知し、地域の潜在的な指導者人材の発掘に努める。
- ・令和6年度からは札幌市との連携を本格的に開始し、本サポーターバンクの周知のほか登録者の積極的な活用を図る。
- ・民間企業等の職員や大学生の活用について検討を進める。

人材バンクの人数

397名(R7.1.31現在)

人材バンクの年齢構成

10代	9名
20代	97名
30代	62名
40代	84名
50代	72名
60代以上	73名

登録者属性

会社員、自営業、公務員、学生、学校職員、無職 等

種目

野球、サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球、バドミントン、ラグビー、体操、水泳、スキー、陸上、柔道、剣道、吹奏楽、合唱、茶道、華道、書道 等

資格有無

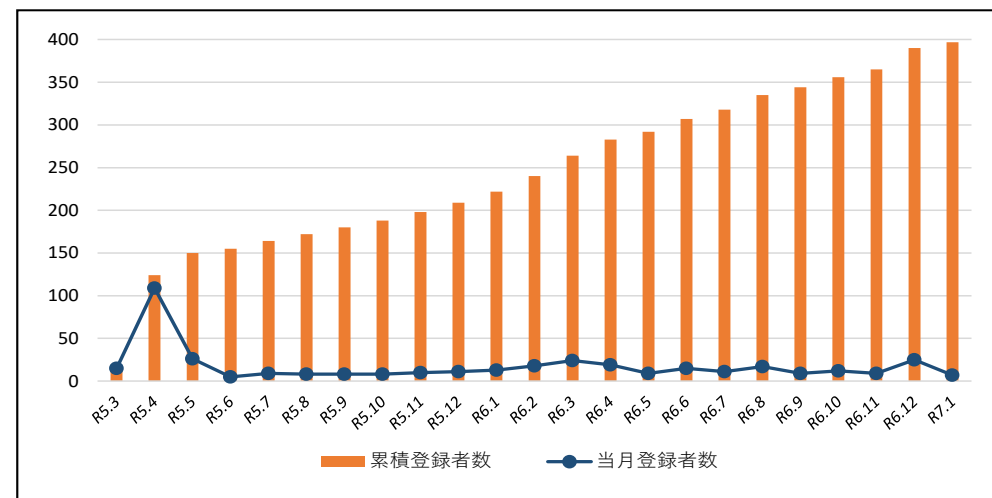
JSPOコーチ・指導員、各競技団体コーチライセンス・審判ライセンス、教員免許、書道師範 等

取組の成果

- ・人材バンクに関わり、札幌市と連携し、道教委からは人材情報を提供する一方で、札幌市教委から道教育大札幌校の学生向けにチラシが配布されるなど双方の取組により、登録者数が着実に増加した。
- ・また、家庭教育サポート企業や道スポーツ協会にも協力を依頼し、登録者数が増加。

今後の課題と対応方針

- ・地域による登録者の差が大きいことから、引き続き周知を図る。
- ・登録者が増える一方で、登録者の活用が十分に進んでいないので、その要因を分析するとともに対応を検討する。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

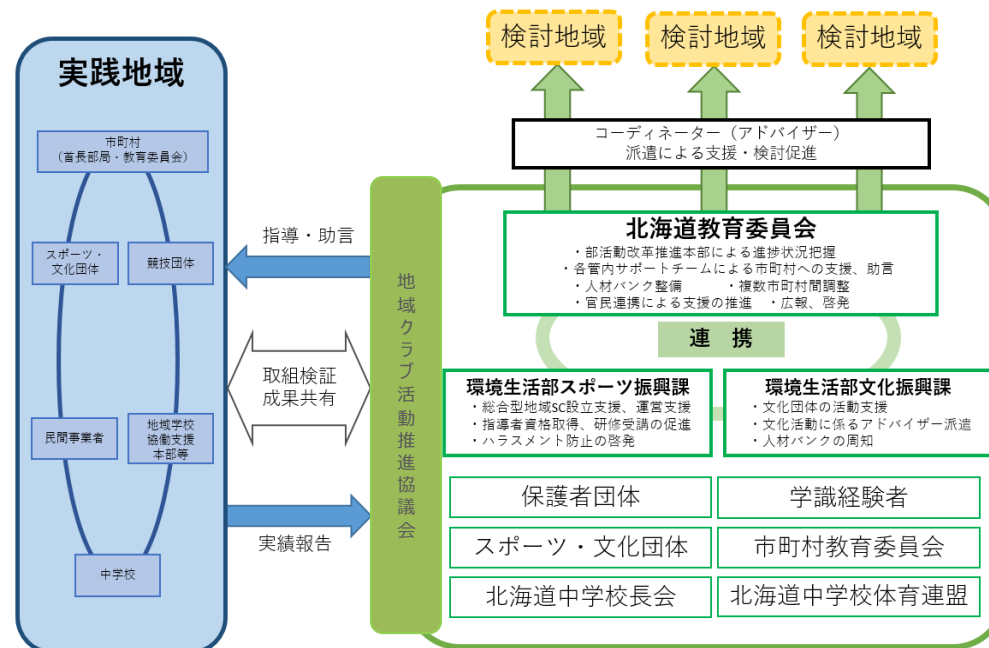
取組事項

・道内関係団体の代表者等を構成員とする「部活動・地域クラブ活動関係者会議」を開催し、実証地域の事例紹介等を通じて、情報共有や意見交換を行う。
 ・「ほっかいどう部活動・地域クラブ活動サポーターバンク」について、関係部署や大学、民間企業等の協力により学生や社員等へ周知する。

取組の成果

・会議を関係団体の代表者が一堂に会して開催したことで、様々な視点から幅広い意見交換を行うことや、市町村の取組状況や課題、道の取組等について情報共有を行うことができた。
 ・道内の実証地域（北見市、標茶町）から事例発表を行い、効果的な取組について広く共有することができた。
 ・関係部署や大学、民間企業等を通じてサポーターバンクの周知を行ったことにより、登録者数の増加に繋がった。

【部活動・地域クラブ活動関係者会議】



	周知した数
大学	北海道教育大学（５校）
民間企業等	道教委家庭教育サポート企業 ２，８８８社

今後の課題と対応方針

- ・地域クラブ活動推進協議会における意見交換や事例発表で明らかになった成果や課題を踏まえ、今後の市町村支援に向けた取組の検討を行っていく。
- ・サポーターバンクの周知について、より幅広い層への働きかけを行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



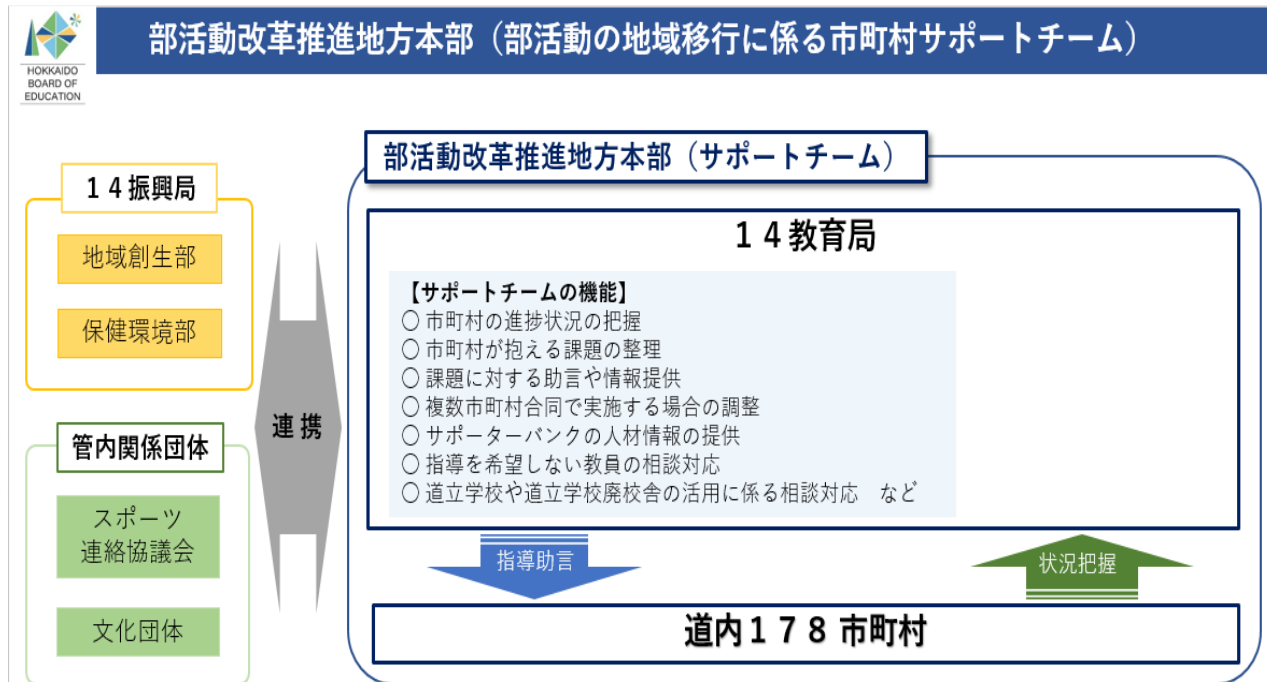
取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

・教育局に設置するサポートチームが、地域移行に係る取組を複数市町村合同で行う場合の調整を行うほか、道内外の先進事例を発掘し市町村へ提供する。

・庁内に設置する「部活動改革推進本部」において、教育局サポートチームから報告のあった好事例や課題を整理し、関係部署が横断的に連携し、施策を検討するほか、会議や広報媒体を活用し、成果と全道へ普及する。



取組の成果

・部活動改革推進本部における市町村の進捗状況の把握や課題の整理により、本道全域による広域的な取組を進めることができた。

・市町村サポートチームによる各般の取組により、市町村の課題に応じた個別の助言や事例提供を行う体制の構築が進むとともに、複数市町村間の連携による取組など、広域的な取組の推進に向けた基盤づくりが進んだ。

今後の課題と対応方針

・部活動改革推進本部において把握した全道的な成果の普及により、効果的な取組の横展開を図る。

・市町村サポートチームの助言機能の向上と先進事例の蓄積及び周知により、市町村の課題に応じた支援が可能な体制の構築を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



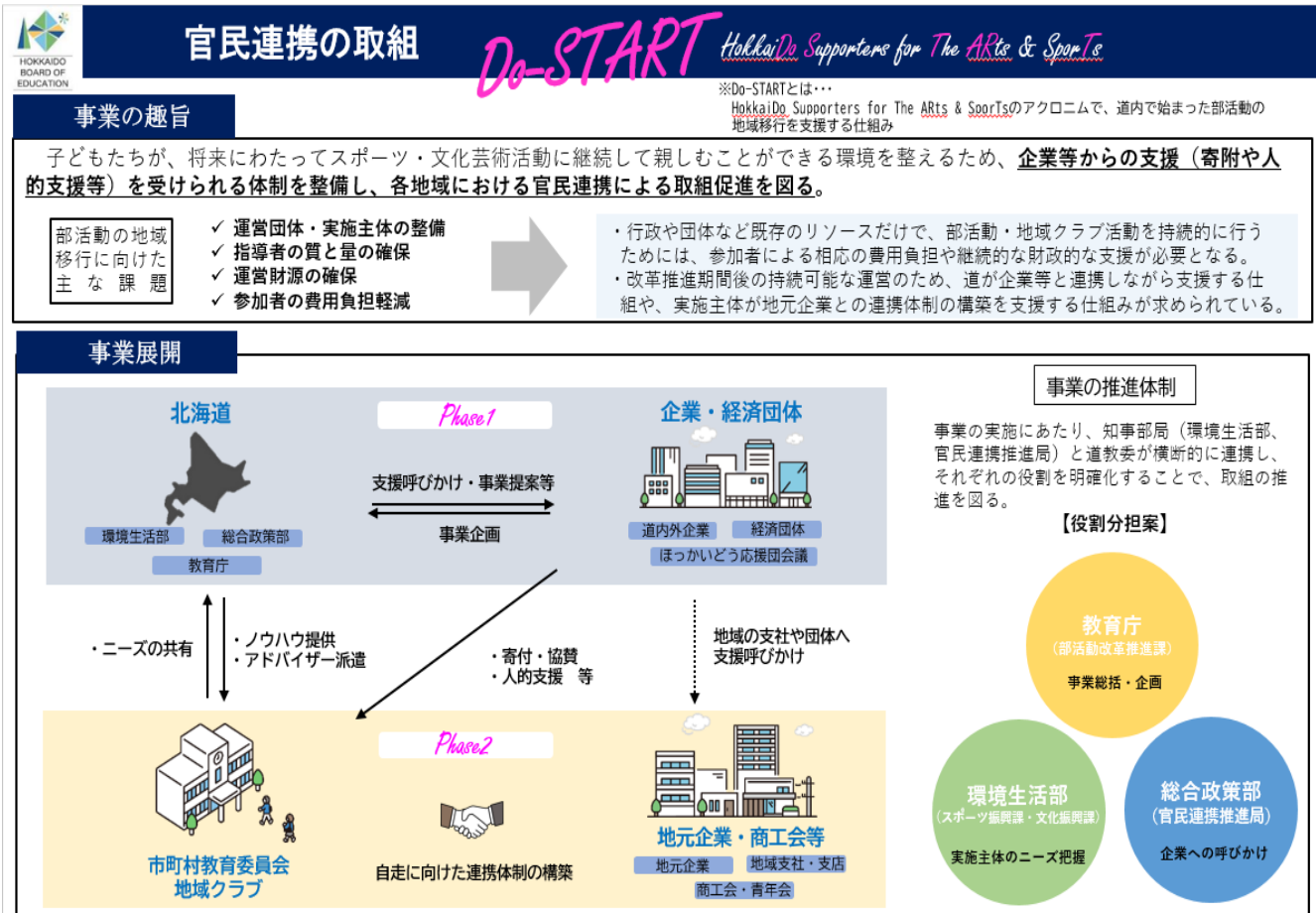
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

・企業等からの支援（寄附や人的支援等）を受けられる体制を整備し、参加者の費用負担軽減等に向けた各地域における官民連携による取組の推進を図る。

・各地域クラブにおける人材や財源等の確保の一助とするため、民間による支援と地域クラブのニーズをマッチングさせる仕組みである「Do-START（hokkaiDo-Supporters for The Art and sportS）構想」（以下「Do-START」という。）の具体化に向けた検討を進め、各地域クラブの財源の確保による持続的な活動に向けた支援と参加費用負担の軽減等につなげる。



将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるよう、官民連携で実施主体を支援

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

・ Do-STARTのモデルとして、胆振管内安平町（国事業の実証自治体）の安平町立早来学園（義務教育学校）において、道教委と連携協定を締結している大塚製薬(株)（医薬品はもとより、ポカリスエットなどの食料品を販売する製薬会社）の地域貢献型自動販売機を設置し、地域移行の受け皿となっている総合型地域スポーツクラブ（アビススポーツクラブ）に売り上げの一部を寄附するスキームを展開した。

【設置記念キックオフイベント】



〈左から〉

道教委、大塚製薬(株)、総合型地域SC、
安平町長

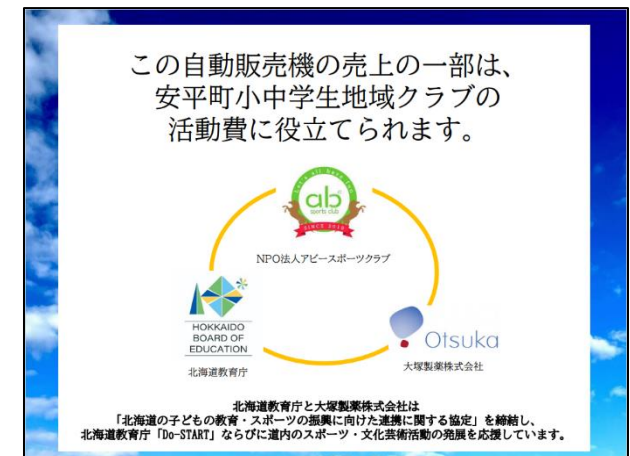
【地域貢献型自動販売機】



〈参考〉

- ・道内中学校では初めての設置
- ・地域貢献型自動販売機は災害備蓄庫としても活用
有事の際には飲料等を無償提供

【地域貢献型自動販売機 啓発用広告】



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

取組の成果

・Do-STARTの展開として、後志管内余市町（国事業の実証自治体）における地域移行を支援する取組として、大塚製薬(株)が主催者となり、余市町や地域移行の受け皿となりうる地元の総合型地域スポーツクラブ、地元のスーパーマーケットの(株)ラルズ（北海道・北東北に広がる地域密着型のスーパーマーケットチェーン）と連携し、北海道日本ハムファイターズの協力による野球教室を開催するほか、地域移行や地域クラブ活動のPRを実施（費用は企業側が負担）し、今後も継続的に支援。

【プレイボールイベント】



〈左から〉
道教委、余市町長、総合型地域SC
(株)ラルズ、大塚製薬(株)

【日本ハムファイターズによる野球教室】



・ファイターズOB選手らによる指導
(鶴岡慎也氏ほか2名)

【スーパーマーケットにおけるPR活動】



・配付リーフレット



・店舗での商品展開、PR

今後の課題と対応方針

- ・地域移行の課題に共感して社会貢献やビジネスチャンスと捉え、市町村や地域クラブ等に対して継続して連携・協力いただく民間企業の掘り起こしが課題。
- ・今後、地域移行の課題をオープン化し、連携・協力いただく民間企業の掘り起こしを行うとともに、市町村等とのマッチングを促進させる取組を行う。
- ・費用負担の軽減に向け、企業からの寄付等を活用した基金の創設や企業版ふるさと納税の活用等に関する先進事例を市町村に広く情報提供する。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・部活動の地域移行は、スポーツ振興やまちづくり、地域振興など多角的な視点で取り組むべき課題であり、官民連携で取り組むなどして、地域の実情に応じた持続可能な体制を構築することが重要。

・市町村の課題として「指導者の確保」「受け皿団体の確保・整備」「運営財源の確保」「生徒の移動手段の確保」等が多く上げられているが、「指導者の確保」は移行後においても継続的な課題であり、民間企業や大学等との更なる連携により、確保するための裾野の拡大に取り組むことが必要。

・日頃から地域のスポーツ活動や学校部活動に関与している関係団体等と地域移行の現状や課題、先進事例等を共有することにより、地域移行への関係団体等の主体的な関与を促すことが必要。

・地域移行を持続可能なものとするためには、地域住民の積極的な関与が不可欠であることから、地域住民が地域移行を自分事として捉え、活動への主体的な関与や応分の費用負担、生徒の送迎等について理解を高めていくことが必要。

・地域移行先となる地域クラブ活動の実施主体において、運営財源の不足は深刻な課題であり、今後の持続可能な体制構築には、民間企業等からの寄附や人的・物的支援は不可欠。民間企業等が支援の意向を示していても、地域クラブ側のニーズとのマッチングが叶わず、民間のリソースが十分に活用されていない状況が見られることから、円滑に調整を図る仕組みを構築し、個々の支援策を具体化することが重要。

●成果の評価

・事業計画書に記載した各項目の事業内容については、各項目の「2. 実証内容と成果」「取組の成果」に記載のとおり、おおむね実施できており、部活動の地域移行の課題に対する解決策の一助となるよう、一定の成果があったものと考えている。

・また、事業計画書の「3. 達成目標と達成状況の検証方法」に記載した達成目標についても達成できている。

【達成目標】

市町村における休日の地域スポーツクラブ活動の実施割合 40%以上

※試行的な実施を含む

【達成状況】

42.7% (R6.12時点) ※R5.12時点26.4%

●今後に向けて

・各項目の「2. 実証内容と成果」「今後の課題と対応方針」及び左記「●総括」に記載のとおり、実証によって明らかとなった課題等を踏まえ、今後も引き続き、関係機関・関係団体、民間企業等と連携・協力し、部活動の地域移行に向けた各般の課題解決にかかる取組を継続する。

2.実証内容と成果②

広報資料

北海道教育委員会
北海道トップ
教育委員会トップ
カテゴリから探す
組織から探す

HOME > 教育庁 > 学校教育局部活動改革推進課 > 部活動改革推進係

部活動改革推進係

ページ内目次
部活動の地域移行
部活動の地域移行に係る国の実証事業等
地域クラブ活動の運営団体にすること
部活動改革に係る通知・事務連絡
部活動指導における好事例集
部活動方針関係
部活動指導員関係
部活動・地域クラブ活動の指導にすること
その他(部活動関係)
入札公告・結果等の公表
北海道の文化・スポーツ振興にすること

部活動の地域移行

部活動の地域移行

に向けた取組がはじまります！

部活動の地域移行の趣旨等

(リーフレット) 部活動の地域移行に向けた取組がはじまります！ (PDF 1.46MB)
(スポーツ庁HP) 部活動改革ポータルサイト
(文部科学省広報誌ミラメクnote版) 部活動改革～学校から地域へ、より豊かなスポーツ・文化芸術活動への扉～ (ポイント解説)
(スポーツ庁YouTube動画) 部活動の地域移行 (長崎県 長与町) ～生涯スポーツ社会の実現に向けた「地域スポーツ活動」への進化～
(スポーツ庁・文化庁YouTube動画) 部活動の地域クラブ活動への移行 (地域移行) ～京都府舞鶴市、福岡県宗像市、兵庫県加古川市、加古郡播磨町の間取り～

北海道部活動の地域移行に関する推進計画 (令和5年3月策定)

子どもたちに豊かなスポーツ・文化芸術体験を届けるために

部活動の地域移行

に向けた取組がはじまります！

北海道では、全国を上回る速度で進行する少子化により、地域によっては、学校単位では部活動の維持が難しくなっています。国は、公立中学校等の休日の部活動を段階的に地域へ移行する方向性を示しており、道内においても、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に持続的に親しめる環境を整えるため、各地域で、これからの部活動の在り方を検討しています。

背景1 道内中学生の減少

道内公立中学校の生徒数は、昭和61年度(1986年度)に273,665人となりピークを迎え、その後減少傾向となり、令和4年度(2022年度)には116,587人となり、ピークから約57.4%、157,078人減少しています。

道内公立中学校生徒数の推移 (1986～2022)

中学生の数は、36年間で半分以上に

背景2 部活動数の減少

中学生の減少に伴い、道内の公立中学校(札幌市立を除く)の部活動数は、平成27年度(2015年度)の3,697部から令和4年度(2022年度)には3,078部となり、7年間で約16.7%、619部減少しています。

道内公立中学校の部活動数の推移 (2015～2022)

部活動数は、7年間で約2割減

- 生徒数の大幅な減少により、学校単位では部活動が成り立たない...
- 部活動数の減少により、子どもたちがやりたい活動を諦めざるを得ない環境に...
- 教員の長時間勤務、教員不足が深刻化...

部活動の在り方を見直し、学校と地域の連携、地域で子どもたちが活動できる環境の整備等により、持続可能で豊かなスポーツ・文化芸術環境を再構築することを目指します。

部活動の地域連携

近隣の複数の学校が合同で実施する合同部活動の導入や、地域の人材を活用した部活動指導員の活用により、学校での部活動を維持継続する取組

地域の指導者(部活動指導員)

(参考) 道内中学校部活動(札幌市を除く)の約22%が合同チームを編成(84年度調査)

合同部活動

地域移行(地域クラブ活動)

学校部活動の代わりに、地域の実情に応じて、自治体や団体等が運営する「地域クラブ活動」により、子どもたちが参加し、多様な活動を行う形態

地域の指導者

地域クラブ活動

生徒が参加

地域クラブ活動とは・・・?

学校部活動の代わりに地域の方々を中心となって行われるクラブ活動。地域の実情に応じて、様々な運営形態が考えられています。

主な利点

- 持続的で多様な活動
- 学校を越えた仲間や世代との交流
- 専門性のある指導
- 引退後も活動を継続

主な課題

- 運営団体の確保
- 指導者の質と量の確保
- 運営財源の確保
- 活動場所の確保
- 費用負担の軽減
- 生徒の移動手段の確保

北海道における方向性

道教委では、道内各地の取組を促進するため、令和5年3月に「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」を策定しました。本計画に基づき、令和5年度から各種取組を展開していきます。

対象校種 公立中学校(義務教育学校後期、中等教育学校前期、特別支援学校中学校部含む)
※高等学校は、地域や学校等の実情に応じて部活動の改善に取り組むこととしています。

考え方 休日の部活動から段階的に地域移行することを基本とします。
※平日と休日の一体的な移行や、地域連携から取り組むなど、地域によって多様な形態が考えられます。

スケジュール 令和5年度から令和7年度までの3年間で取組を重点的に進め、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指します。

国の改革推進期間 R5 R6 R7 R8～
取組を重点的に実施

はじまるよ 部活動の地域移行

北海道教育庁 学校教育局 部活動改革推進課
(詳しくは) <https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/bukatsudo.html>

【ホームページでの広報】

<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/bukatsudo.html>

【周知用リーフレット(表面)】

【周知用リーフレット(裏面)】

2.実証内容と成果③

広報資料



運動・スポーツ & 文化・芸術

ほっかいどう部活動地域クラブ活動サポーターバンク

はじまるよ部活動の地域移行

中学生・高校生のスポーツ・文化活動に皆さんの力をお貸しください。

北海道教育委員会では、道内の公立学校で行われる「部活動」や、各地域で部活動に代わって行われる「地域クラブ活動」の指導者の候補者として登録していただける方（サポーター）を募集しています。

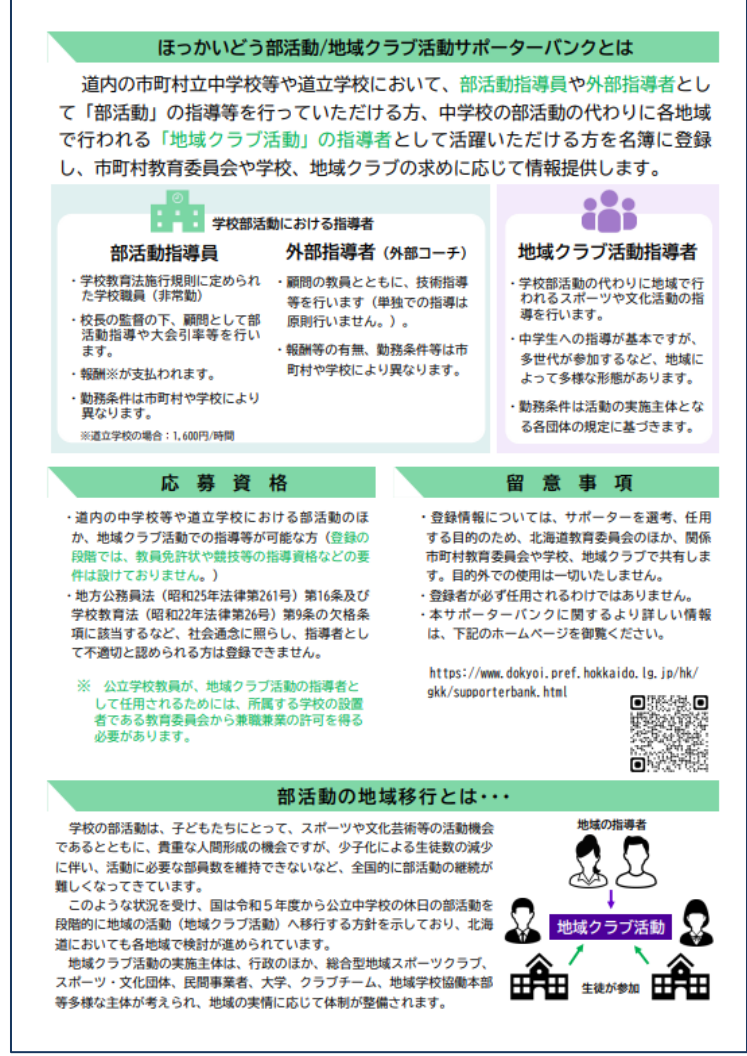
「スポーツや文化活動の指導経験がある方」、「競技や文化活動等の経験があり指導が可能な方」は、北海道の子どもたちのために、登録をご検討ください。

ご登録はこちらから
<https://www.harp.lg.jp/qMnIAJEu>

フォームへの入力が多い場合のみ、道教委のHPから様式をダウンロードし、郵送又はFAXにて送信してください。

北海道教育庁 学校教育局 部活動改革推進課
 住 所：〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目
 電 話：011-206-6067
<https://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/supporterbank.html>

【サポーターバンクリーフレット（表面）】



ほっかいどう部活動/地域クラブ活動サポーターバンクとは

道内の市町村立中学校等や道立学校において、部活動指導員や外部指導者として「部活動」の指導等を行っていただける方、中学校の部活動の代わりに各地域で行われる「地域クラブ活動」の指導者として活躍いただける方を名簿に登録し、市町村教育委員会や学校、地域クラブの求めに応じて情報提供します。

部活動指導員	外部指導者（外部コーチ）	地域クラブ活動指導者
- 学校教育法施行規則に定められた学校職員（非常勤） - 校長の監督の下、顧問として部活動指導や大会引率等を行います。 - 報酬が支払われます。 - 勤務条件は市町村や学校により異なります。	- 顧問の教員とともに、技術指導等を行います（単独での指導は原則行いません。）。 - 報酬等の有無、勤務条件等は市町村や学校により異なります。	- 学校部活動の代わりに地域で行われるスポーツや文化活動の指導を行います。 - 中学生への指導が基本ですが、多世代が参加するなど、地域によって多様な形態があります。 - 勤務条件は活動の実施主体となる各団体の規定に基づきます。

※道立学校の場合：1,600円/時間

応募資格	留意事項
- 道内の中学校等や道立学校における部活動のほか、地域クラブ活動での指導等が可能な方（登録の段階では、教員免許状や競技等の指導資格などの要件は設けておりません。） - 地方公務員法（昭和25年法律第261号）第16条及び学校教育法（昭和22年法律第26号）第9条の欠格事項に該当するなど、社会通念に照らし、指導者として不適切と認められる方は登録できません。	- 登録情報については、サポーターを選考、任用する目的のため、北海道教育委員会のほか、関係市町村教育委員会や学校、地域クラブで共有します。目的外での使用は一切いたしません。 - 登録者が必ず任用されるわけではありません。 - 本サポーターバンクに関するより詳しい情報は、下記のホームページを御覧ください。

※ 公立学校教員が、地域クラブ活動の指導者として任用されるためには、所属する学校の設置者である教育委員会から兼職兼業の許可を得る必要があります。

<https://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gkk/supporterbank.html>

部活動の地域移行とは・・・

学校の部活動は、子どもたちにとって、スポーツや文化芸術等の活動機会であるとともに、貴重な人間形成の機会ですが、少子化による生徒数の減少に伴い、活動に必要な部員数を維持できないなど、全国的に部活動の継続が難しくなっています。

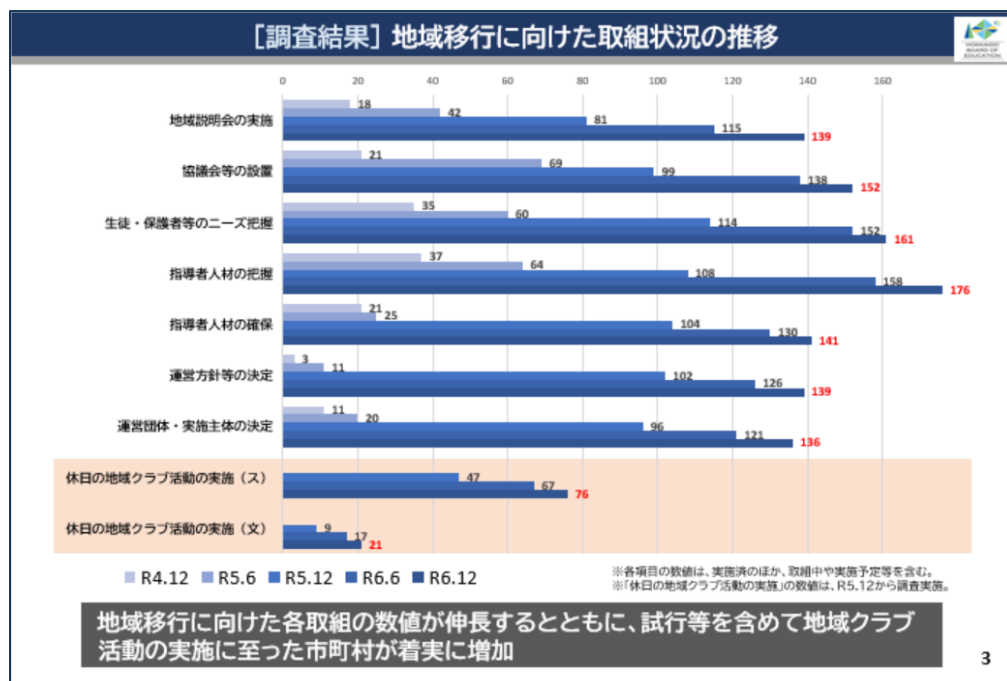
このような状況を受け、国は令和5年度から公立中学校の休日の部活動を段階的に地域の活動（地域クラブ活動）へ移行する方針を示しており、北海道においても各地域で検討が進められています。

地域クラブ活動の実施主体は、行政のほか、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ・文化団体、民間事業者、大学、クラブチーム、地域学校協働本部等多様な主体が考えられ、地域の実情に応じて体制が整備されます。

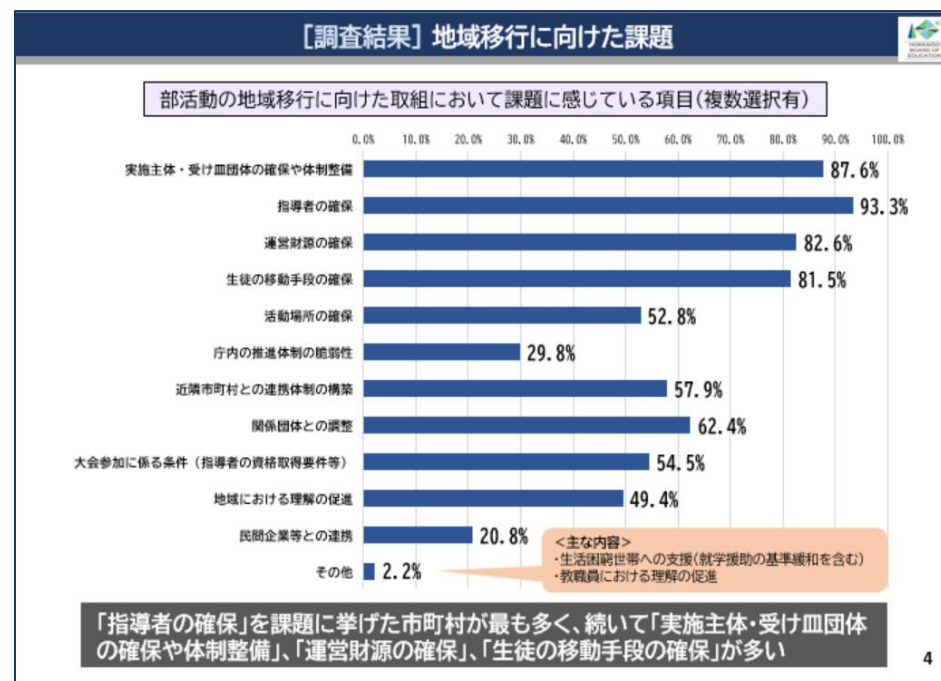
【サポーターバンクリーフレット（裏面）】

2.実証内容と成果④

参考資料（直近の部活動・地域クラブ活動関係者会議で使用了資料抜粋）



【第2回会議資料①】



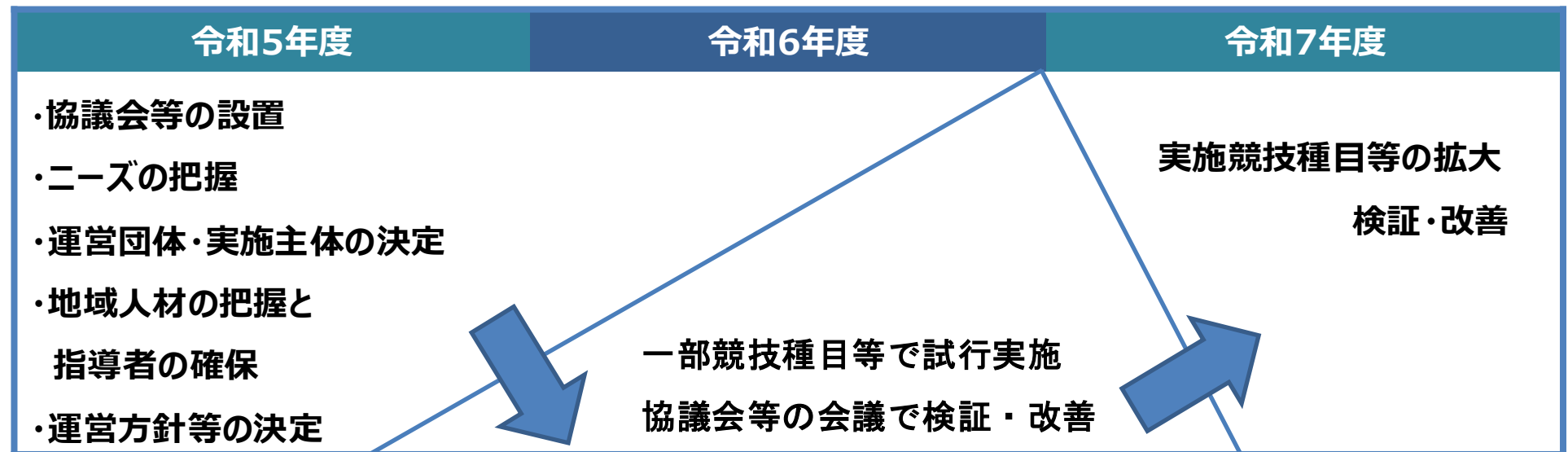
【第2回会議資料②】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

- 市町村や地域においては、当該地域の実情等を加味し、具体的な取組やスケジュール等を定めた推進計画等を策定するなどした上で、関係者間で協議。
- 進捗状況等の点検を適宜行い、必要に応じてスケジュールを見直ししながら、着実に進めていく。

《例》



※ 検討の段階から随時、関係団体、学校、保護者、地域住民への情報発信

「北海道部活動の地域移行に関する推進計画」第4章 2 より抜粋

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 旭川市

自治体名：北海道旭川市

担当課名：スポーツ推進課

電話番号：0166-23-1944

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	747.66 km ²
人口	317,167 人
公立中学校数	26 校
公立中学校生徒数	7,129 人
部活動数	235 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本市では26校ある公立中学校のうち24校で運動部活動が設置されている。

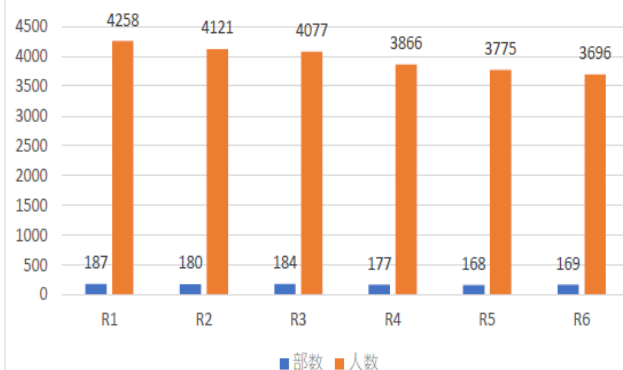
まず、市内の中学生数の推移を見てみると、令和元年度と比べて令和6年度の生徒数は622名の減少となった。また、運動部活動について見てみると、部活動数は18減少し、所属している生徒数は562名の減少となっている。

データからも分かるとおり、本市においても少子化の影響は現われており、今後も生徒数及び部活動数は漸減していくことが見込まれ、部活動の在り方は検討しなければならない段階にある。そのため、令和5年度から実証事業を開始し、課題の抽出や地域移行のための様々な手法を分析しているところである。

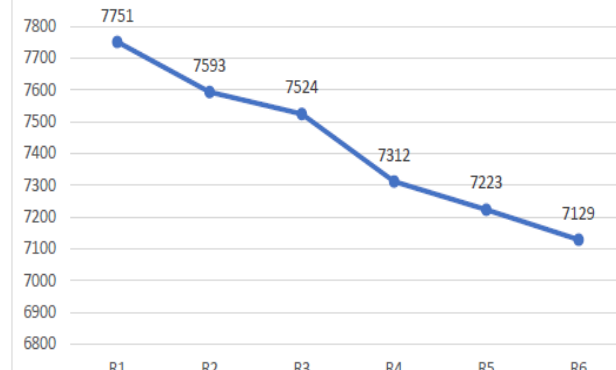
本市の課題としては、指導者の確保が挙げられる。市内にどれくらい継続的な指導に従事できる人材がいるのか、受け皿となり得る団体がどれくらいあるのかといったことに関する情報収集はまだ十分とは言えない。

本市において実現可能な地域移行の在り方を、各種情報や実証事業によって得られたデータに基づいて検討していくことが喫緊の課題となっている。

運動部活動数と所属入数の推移 (R1～R6)



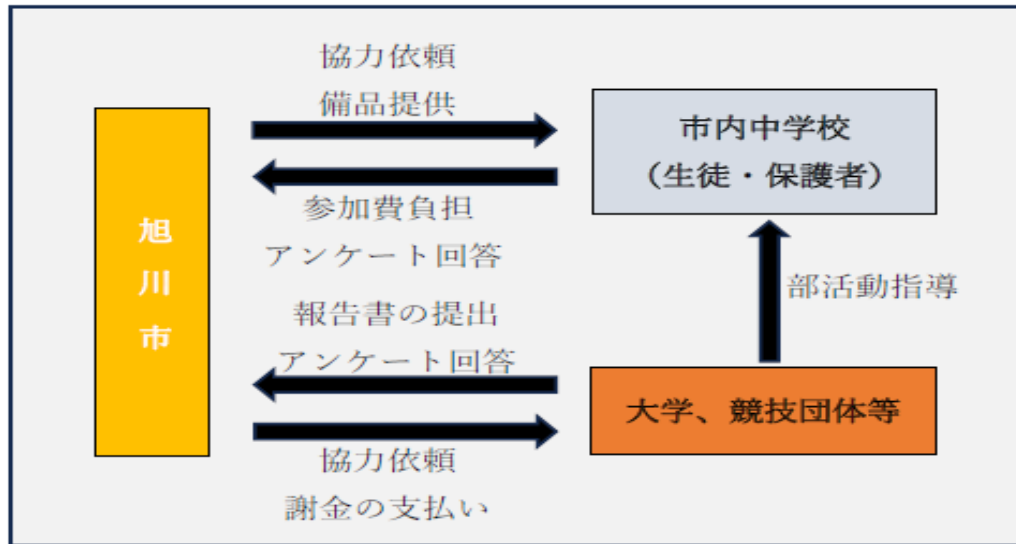
中学生数の推移 (R1～R6)



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・モデル校の選定にあたり、校長会との調整
- ・中学校に対するアンケート調査 等

◎首長部局（スポーツ推進課）

- ・全体統括
- ・各団体等への実証事業への協力依頼
- ・指導報酬等の支払い
- ・アンケート調査の実施等

年間の事業スケジュール

令和6年7月	懇話会の開催
令和6年8月	各競技団体への協力依頼
令和6年9月	モデル校選定のため校長会への協力依頼
令和6年10月	モデル校への説明実施
令和6年11月	実証事業の開始
令和6年12月	同上／次年度以降に向けた競技団体へのアンケート調査
令和7年1月	同上
令和7年2月	同上 アンケートの実施／中学校に対する現状調査
令和7年3月	次年度へ向けた計画検討 懇話会実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・市内で盛んであると思われる競技を対象に指導者の選定を行う
- ・指導者には、当課の活動や令和5年度の実証事業を通して一定の協力関係を構築することができた団体等を対象に今年度の実証事業への協力を依頼する
- ・実証事業の実施に先立ち、学校長と顧問との顔合わせ、事前打ち合わせを実施する
- ・なるべく週4回の指導機会を確保するよう協力を求める

対象種目

- ・バレーボール（女子）
- ・バスケットボール（女子）
- ・陸上競技

依頼先

- ・バレーボール（女子）
ヴォレアス北海道とのつながりから、元プロ選手の紹介・派遣を依頼
- ・バスケットボール（女子）
旭川市立大学短期大学部の専門家に指導を依頼
- ・陸上競技
道北陸上競技協会に指導者派遣を依頼

資格有無

指導者には、資格の有無を求めているが、大学や競技団体等で指導経験のある者、プロ経験者などに指導を依頼した。

取組の成果

- ・指導者には、概ね月4回程度の指導日を確保してもらい、土日を中心に指導を行ってもらった
- ・指導者の指導力の高さが周辺の中学校でも話題になり、合同練習会の実施などを実施した
- ・事業の実施に当たっては指導者と学校側で大きな問題は生じることはなかった
- ・顧問からは専門的な指導方法が参考になったなどの声が聞かれた

実証事業実施回数

	11月	12月	1月	2月
バスケ	2	3	3	2
バレー	2	4	4	3
陸上	4	3	2	3

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

実証事業の内容

【バスケットボール】

旭川市立大学短期大学部の准教授である赤堀達也氏に指導協力を依頼した。各回、赤堀氏単独での指導ではなく、赤堀氏が指導を行っている北海道教育大学旭川校女子バスケットボール部の学生も複数指導に参加してくれ、モデル校の生徒たちは、比較的年齢の近い人から指導を受けられる貴重な機会となった。学生の中には教員を目指している者もあり、事業についてよく理解してくれた。また、大学生などの協力を得られれば、十分に地域の受け皿となり得ることを示してくれた。

【バレーボール】

ヴォレアス北海道経由で、ビーチバレーボール選手である戸田由里香氏に指導に入っていた。また、ヴォレアス北海道の元選手である田城広光氏にも1度指導に参加していただいた。

土日だけの指導だけではなく、学校側と打合せの上で平日に指導を実施するなど主体的に事業に協力してくれた。また、近隣の中学校との合同練習会なども実施できた。

【陸上競技】

道北陸上競技協会の飯塚享良氏に指導を行っていただいた。協会からの派遣ということで、モデル校の生徒たちはすでに大会などで飯塚氏と知り合っており、初回からスムーズに事業を開始できた。

飯塚氏には学校側とも直接スケジュールの調整を行っていただくなど、積極的に事業に協力していただいた。

今後の課題と対応方針

- ・指導者の確保に当たっては、少数のモデル校を対象に実施している実証事業であるために一定の質を保つことが可能であるが、全市的に地域移行を行う場合には、様々な手法を検討する必要がある。
- ・一般の方に指導を依頼する場合は、時間の確保が課題になると強く感じた。毎週定められた時間に指導を行える指導者を確保するためには非常に高いハードルがあり、入念に検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・教育委員会と協力し、校長会での事業周知
- ・校長会からモデル校への協力依頼
- ・モデル校から保護者への周知

取組の成果

- ・教育委員会と連携しながら、校長会での事業説明を実施し、モデル校選定への協力も依頼した。
- ・校長会への協力をはじめに取り付けることで、各中学校への周知、協力がスムーズに行えた。
- ・モデル校選定時には既にモデル校の校長や部活動顧問も事業への理解を示しており、事業を円滑に進めることができた。
- ・モデル校は対象となる部活動の生徒や保護者に事前説明を行ってくれ、事業に対する反発などは特段生じなかった。
- ・校長会を通して事業を展開することで、部活動の地域移行についての関係者の理解がより深まった。

今後の課題と対応方針

・今年度の実証事業では対象競技の選定後にモデル校を選定したが、3校中2校の顧問は競技経験者であり指導に当たって困難な事情は抱えていなかった。そのため、今後の課題としては、校長会との協力関係をより強固にし、市内の中学校で指導などに問題を抱えている部活動の把握を事前に行える体制の整備が必要であると感じた。具体的には、教育委員会が中心となり、各学校に対するアンケート調査などが挙げられる。来年度以降の実証に向けて、すでに取組みを開始している。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- ・実証事業の前後に生徒を対象としたアンケートやヒアリングの実施
- ・アンケートやヒアリングの結果をもとに、事業に生徒の意見を反映させる

取組の成果

- ・生徒は、外部指導者からの指導を受けることに対して肯定的に評価していた。一方で、学校から離れて地域のスポーツクラブに所属して競技に取り組むことについては消極的な意見もあり、今回の実証事業のように部活動の一部の指導を外部の指導者が行う体制を希望している者が多かった。
- ・部活動顧問は、実証事業による負担軽減は実感できなかったようである。
- ・保護者は、部活動への向き合い方や上達など子の変化を感じることが多かったようである。ただ、地域移行については肯定的な意見も多い一方で、反対する意見などもあった。月謝については、5,000円以内であれば許容できるという回答が最も多かった。
- ・外部指導者は、週1回程度の指導では少ないと感じたようである。報酬については、妥当であったようである。学校との連携にあたり、日程調整が負担になっていることが分かった。

今後の課題と対応方針

- ・現状では、部活動で実証事業を行う際には顧問の立会いが必要であるため、実証事業を通して顧問は負担軽減を実感できない状態がある。また、実証事業を行うことで生じる新たな負担もあったので、次年度以降はその点もよく考慮して事業を実施したい。
- ・外部指導者と顧問との間での日程調整も負担になっている状況が明らかになったので、様々な工夫やツールの活用により解消していきたい。
- ・生徒やその保護者に対しては、地域移行の必要性をより丁寧に説明して、理解を深めていく取組が必要であると感じた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・モデル校と連携し、実証事業はモデル校の体育館等を利用して実施する

取組の成果

- ・校長会等の協力を得た上で実施した事業であり、今年度は部活動に外部の指導者が指導に入るといふかたちで実施したこともあり、練習会場の確保等には一切支障は生じなかった。
- ・学校側は、実証事業に合わせて土日の体育館確保などに協力してくれた。

今後の課題と対応方針

- ・今年度の実証事業では、普段から活動を行っている部活動に指導者を派遣するといふかたちで実施したため、会場の確保に困難は生じなかったが、今後、さらに事業が拡大し、部活動の地域移行が発展していった場合には、会場の確保やその費用負担には検討しなければならない課題が残っている。
- ・夏季であれば屋内競技と屋外競技で会場を分散することもできそうだが、冬季はすべての部活動が屋内の練習会場を確保する必要があるため、地域移行後の会場調整の方法やそもそも市内に十分な会場があるのかといった問題も検討していかなければならない。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、中学校の部活動に指導者を派遣するという初めての試みであった。スケジュールに遅れが生じるなど予定に変更は生じたものの、実際に指導を受けた生徒からの評価は高く、顧問からは指導を外部の指導者にお願いしたり、あるいは分担することによって負担軽減があったことを評価する声もあった。

今年度の実証事業では3校と数を少数に限定していたため、指導員の質の確保や学校側との連携などといった点では特段問題は生じなかったが、これを全市的に実施する場合には、様々なトラブルが生じることも十分に考えられるため、指導者や地域の受け皿の確保と並行して、全体を統括する組織の設立などについても慎重に検討していかなければならないと強く感じた。

●成果の評価

【指導者】

学校、指導者、市が連携することで円滑に事業を実施することができたのは大きな収穫となった。一方で、地域移行が拡大することに伴い、より多くの指導者の確保が必要になった際の連絡体制や採用基準等についてより検討が必要である。

【会場】

今回の事業では学校を利用することができたが、実際には学校以外の施設での活動も想定されるので、限りある市内施設の利用調整など来年度以降の課題となった。

【受益者負担】

今回、参加料は徴収するものの部活動費から捻出を予定しているため、保護者にとって個人負担という意識はあまり強くないと考えられる。来年度は移行は事業の実施方法などに工夫をして、受益者負担として妥当な金額をより検討していく必要がある。

●今後に向けて

今年度の実証事業では一定の成果を得られたものの、競技ごと、地域ごとに地域移行の在り方を検討する必要性を強く感じた。また、昨年度のように学校外で教室を開講したわけではないため、地域の受け皿の確保という点では進展がなかった。

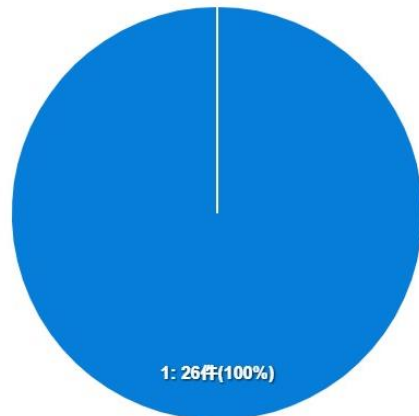
来年度以降は、多様な地域移行の在り方、可能性を探っていきたいと考えている。今年度のように部活動に指導者を派遣するというやり方だけではなく、原点に立ち返って地域の受け皿の確保という点についても並行して検証していきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

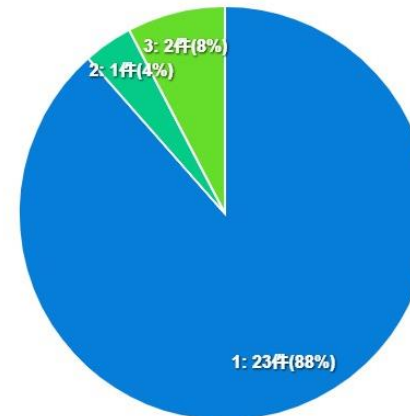
●アンケート結果（生徒）

Q.外部の指導者の指導を受けた感想を教えてください



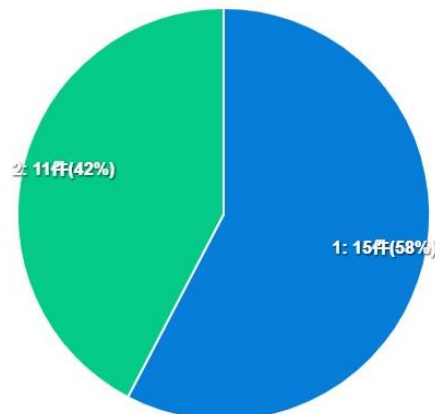
- 1. 良かった
- 2. どちらでもない
- 3. 良くなかった

Q.外部の指導者から指導を受けて、競技を行う上で変化や上達を感じましたか？



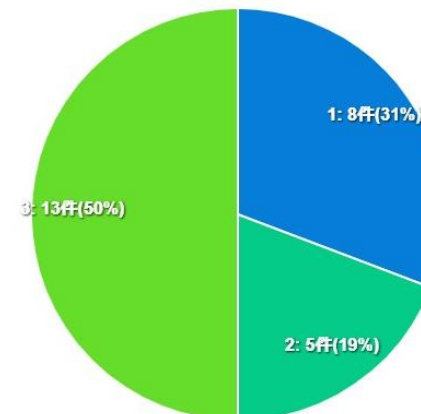
- 1. 変化を感じた
- 2. どちらでもない
- 3. 変化を感じなかった

Q.地域移行の在り方について、現在の考えに一番近いものを教えてください



- 1. 週に1回程度であれば外部の指導者の指導を受けたい
- 2. いつも外部の指導者の指導を受けたい
- 3. これまでどおり常に顧問の先生の指導を受けたい

Q.もし部活動がなくなった場合、地域のスポーツクラブなどに所属して競技を続けますか？



- 1. 続ける
- 2. 続けない
- 3. わからない

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（生徒）

Q.外部指導者の良かった点（抜粋）

- ・専門の方が細かく的確に教えてくださったので、自分の知りたいことがよくわかったのがとても良かったです。
- ・顧問の先生だとあまり一人一人に丁寧には教えてくれないけど外部の人が来てくれることでわからないことを丁寧に教えてくれるので苦手なことがどんどん減ったのでよかったと思いました。
- ・普段と違うトレーニングをしてより成長できているように感じた。新しい環境で部活しているようで刺激がもらえた。
- ・日頃の練習とは違ったことができていい刺激になったこと。指導が平日の練習にもいさせる内容だったこと。

Q.指導を受けて変化を感じた点（抜粋）

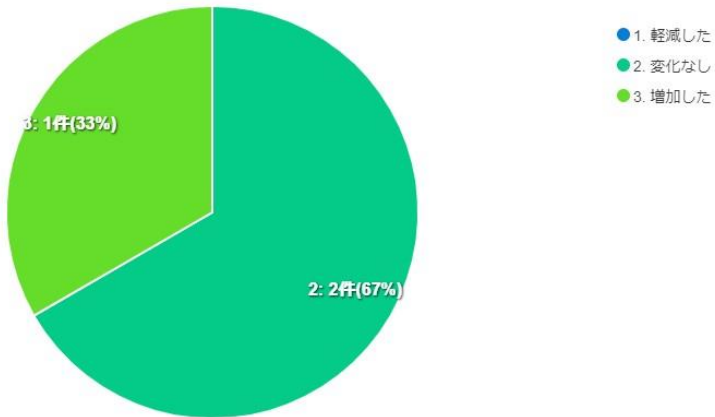
- ・サーブがよく入るようになった
- ・意識してなかった細かい動きを意識するようになって走った時に感じました！
- ・普段と違うトレーニングをしてより成長できているように感じた。新しい環境で部活しているようで刺激がもらえた。
- ・細かい動きやコツの指導を受けたことによって自分の得意不得意について深く考えながら臨めた。
- ・顧問の先生と指導者の指導で上達のスピードが上がった。
- ・アタックを打つ時指導者が来る前はアウトばかりであまり上手く打てなかったのが自分の力をコントロールする方法を教えてもらいきれいなクロスやストレートを打てる頻度が増えた。

2.実証内容と成果②

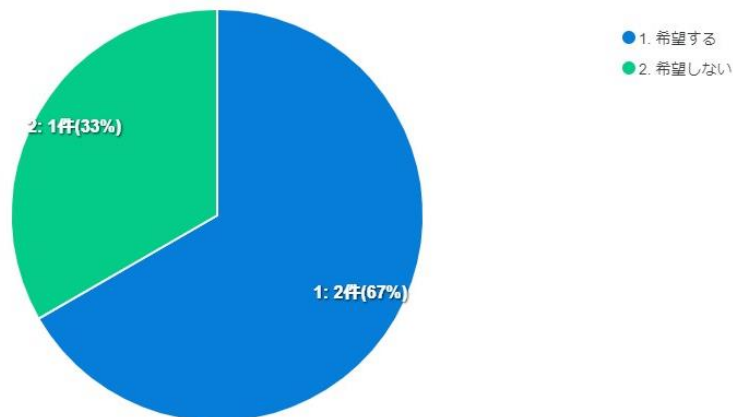
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（顧問）

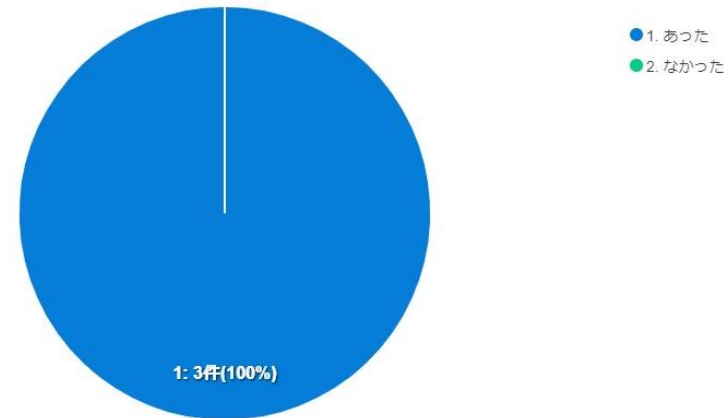
Q.実証事業により顧問の負担は軽減しましたか？



Q.この取組みが制度化された場合、利用を希望しますか？



Q.生徒の様子に変化はありましたか？



2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（顧問）

Q.顧問の負担が増加した点

・練習予定の連絡など、これまでは校内の連絡で完結していたものが外部指導者にも連絡が必要になりました。また、生徒・指導者の関係性などに気を配るという点ではこれまでにない状況でした。

Q.生徒の変化を感じた点

・一年生を中心に基礎技能の向上が見られた。練習に対するモチベーションが上がった。
・体の動かし方・使い方などが良くなった。
・専門的な視点からの助言や賞賛により自信を持つとともに意欲が高まった。

Q.将来的な地域移行に向け、期待すること、あるいは配慮してほしいこと

・今回はあくまでも顧問がいる中での実施であり、指導面の効果は大いに期待できた。ただ、顧問の負担という面では指導面の効果とやり取りにかかる手間を考えると変わっていない。今後顧問がいなくても指導する場面や活動を積極的に取り組むことで負担軽減につながっていくと思います。

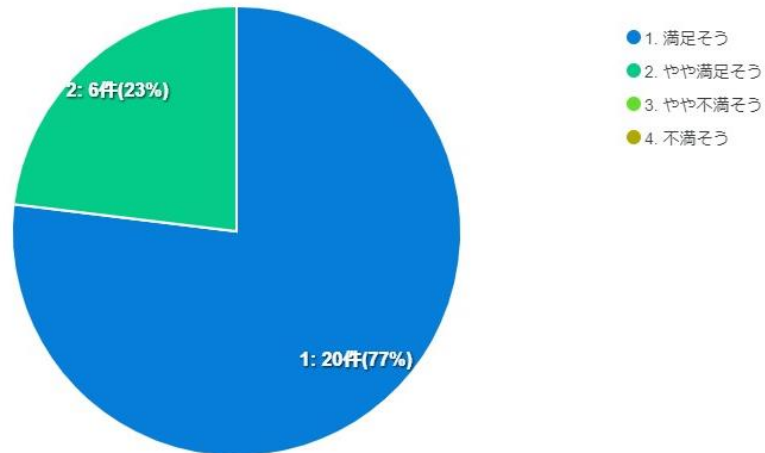
・今回の実証事業は土日のみ月4回だったので、将来的な地域移行の程度がイメージできない中での考えになるのですが…先日、市内で部活動中の顧問の対応についての処分が報道されていました。部活動にはさまざまな生徒がいることや、生徒・指導者間だけでなく生徒同士でもトラブルは起こること、発生したトラブルの対応もするということが理解していただきたいです。また、クラブチーム等に見る勝利至上主義の指導とならないこと、発育・発達段階を踏まえた指導をすることなども考慮し、定期的な「指導者講習会」の実施や義務付け（毎回ではなくても、年に数回は参加するなど）も検討していただければと思います。

2.実証内容と成果②

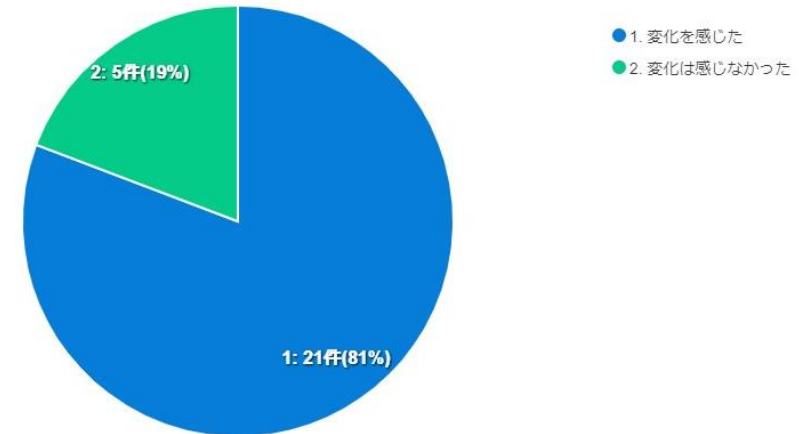
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

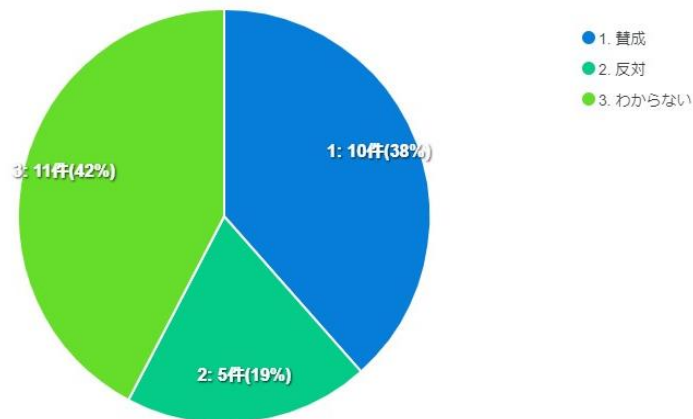
Q.外部の指導者の指導を受けたお子様の反応はどうでしたか？



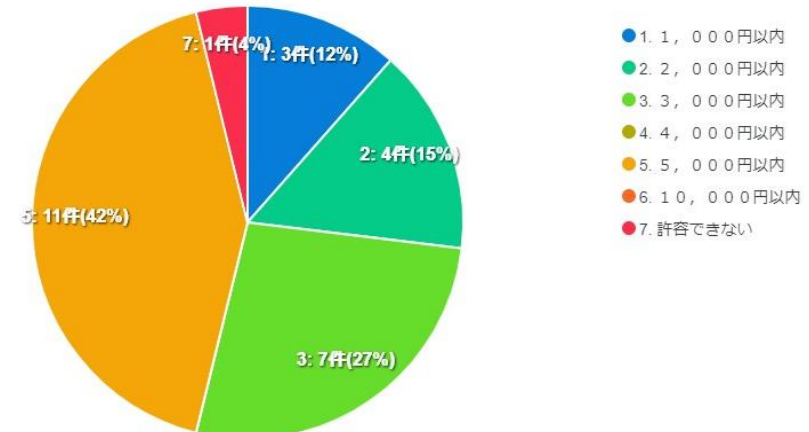
Q.競技への向き合い方や上達などで変化はありましたか？



Q.地域移行についてどのようにお考えですか？



Q.クラブ活動の月謝としてどの程度まで許容できますか？

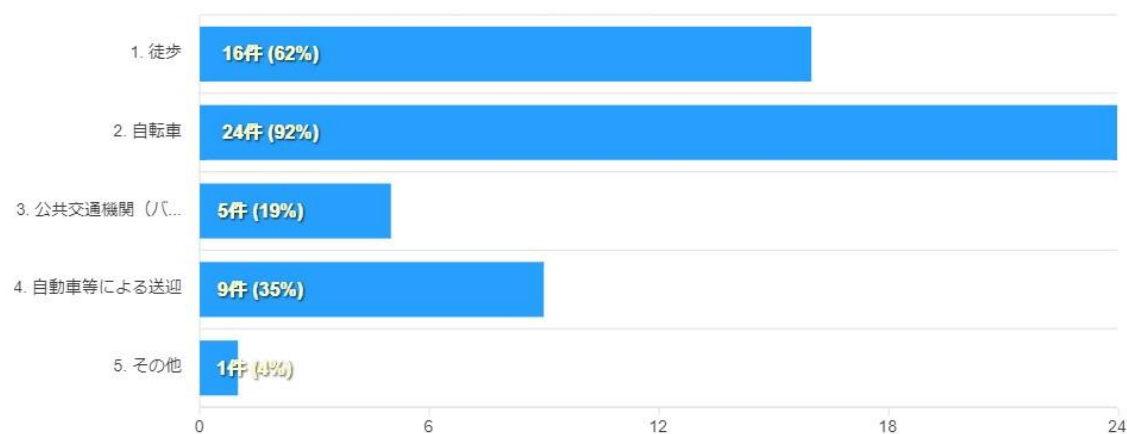


2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

Q.地域のクラブ活動に参加することになった場合、どのような移動手段が想定されますか？



アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（保護者）

Q.子供の変化を感じた点（抜粋）

- ・今までやったことがなかったトレーニングメニューを体験することができたようで、トレーニングに対する意欲が向上したように思います。
- ・試合で個々の成長を感じた。ミスによる失点がかなり減った。
- ・家で競技をするようになった。
- ・ポジティブな考えをするようになった
- ・教え方がわかりやすいと練習内容に満足している様子がみられ前向きに参加している。
- ・指導を受けた日は、できるようになった。調子よかった。などポジティブな言葉がきかれることが多かった。

Q.地域移行に対する考え、意見（抜粋）

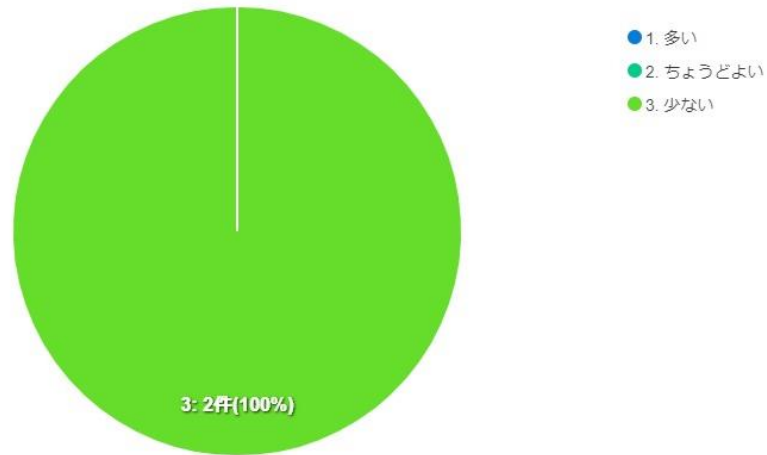
- ・子供に運動をさせたい、部活をさせてあげたいですが、地域移行により、校区外になった場合、共働きでフルタイムで働いている親は送り迎えができません。冬場は自転車は無理なので公共交通機関を利用するとなれば、公共交通機関も場所によってはバスの便が悪いところもあり簡単には使えません。（旭川市は特に…地下鉄が無い、移動に不便です。）徒歩、自転車で遠くまで行くにはそれだけで体力を消耗してしまい、部活動に支障をきたしてしまうのでは？とも考えてしまいます。
- 色々な人に指導してもらったり、専門の指導者に教わる機会があることはとても良いことだと思います。
- ・通ってる中学校でできるのが好ましいが、人員や指導者負担等で別の場所で練習する形になったとしても仕方ないかな～と思います。そうなった場合はできる限り送迎等協力したいと思います。
- ・共働きの家庭では、学校以外が練習場所になると毎回送迎は無理。大会や練習試合以外は、基本学校で練習してほしい。
- ・全てが地域移行になってしまうと、教員との関わり方が薄くなってしまわないかと不安があります。
- ・場所が通ってる学校ではない場合、北海道は冬の移動が難しいのかなと思います。今まではかかっていない経費の問題も発生する事を改めて感じました。先生や子供たちにとって良いと思いますが簡単ではないのかなと感じました。

2.実証内容と成果②

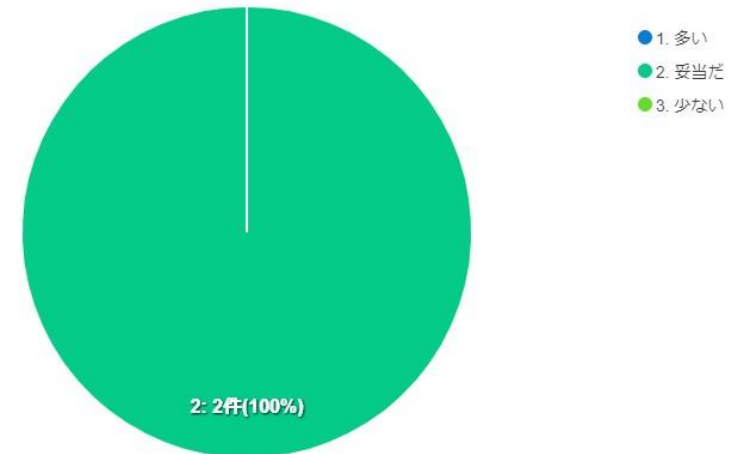
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（外部指導者）

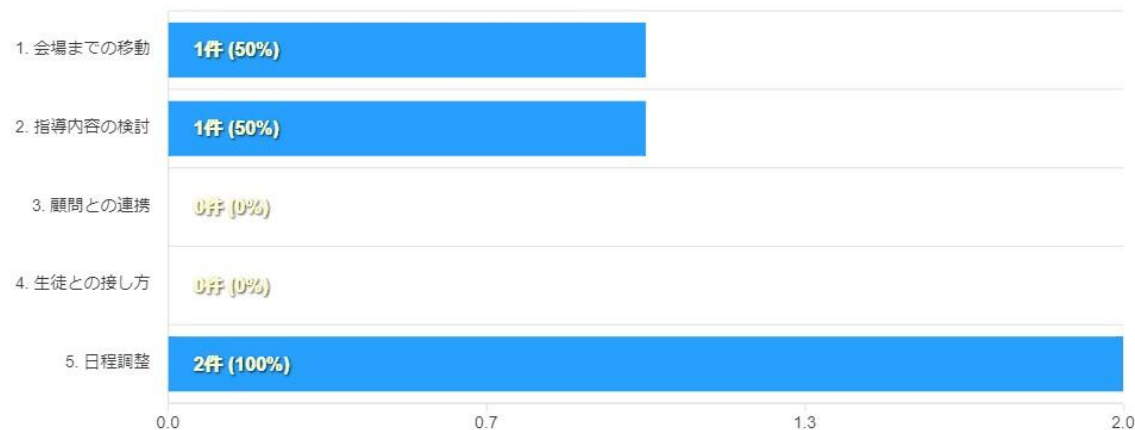
Q.実証事業の頻度（週1回程度）に対する感想を教えてください。



Q.報酬（時給1,600円）に対する考えを教えてください



Q.実証事業で負担を感じた点を教えてください



アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（外部指導者）

Q.負担を感じた点の具体例

- ・負担ではないが指導は顧問の先生との連携が非常に大切で、今回は顧問の先生と面識があり意思疎通が出来たので練習内容を考えることが出来ましたが、そうでない場合は苦慮したかもしれません。
- ・日程調整は、自分の指導しているチームとの練習日程の調整が少しではありますが負担に感じるがあった。
- ・日程調整がかなり難しかった。外部コーチが平日の部活動の時間に行くのはほぼ無理がある。そのため土日しか行く時がないが、土日は1日だけしか活動ができないため、試合があると練習はできなくなる。特に現在は試合経験をたくさん積ませるように各協会が動いているため、今後も土日が練習できない傾向は強くなるはずである。

Q.指導を通して感じた地域移行に向けた課題

- ・監督がチームをどのような方向性に進めたいのかを事前に確認すること。
- ・日程的に数人体制での対応を考えた方が良いと思う。陸上競技の場合種目が多々あり大きく分けて長距離・中距離・跳躍・投てきがあり一応指導は出来ますが折角地域移行をするのであれば専門的な練習もさせてあげたいです。（それには団体としての対応が必要になりますが。）指導場所の確保も課題になると思います。
- ・同一競技の複数のクラブへの加入を認めるのであれば、保護者や生徒さんのメンタルに影響がないか不安である。
- ・昨年度と今年度に携わらせていただいた。昨年度のスポーツ教室形式の方が同じくらいの気持ちの生徒が集まるため外部指導者はやりやすいと考えられる。また小学生も参加させることができ、拡大していく可能性があったと感じた。ただ広報と体育館の問題はあった。広報の問題は、チラシが学校についていないもしくは学校で配られていないようで、また協会に協力を要請しないということだったため、知らない生徒が多かった。また体育館は一般開放の時間はもうほとんど空がない(2校のみで、それぞれ半面と1/3面しか空いていない)ため一般開放していない時間を借りた状況である。体育館利用ルール(10人以上・土日の一般開放など)から見直す必要があると感じた。そもそもこのルールがあると外部指導者は始めることができない。今年度は、広報と体育館問題は解消された。しかしその学校以外の生徒が入る余地がなくなってしまうため、拡大する可能性はないと感じた。学生コーチの参画はとても好感触であると感じている。生徒にとっても喜ばれているようである。これが続いていけば一般の外部コーチが増え、地域移行が進みやすくなる。今後も続けたい。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（外部指導者）

Q.外部の指導者が生徒を指導する上で配慮が必要であると感じた点

- ・生徒さんの情報をシッカリ学校などから得ることが必要。
- ・4ヶ月の短期間でしたが個々のメンタルの部分が見えてくると慎重な指導が必要。
- ・最近では部活のほかに別の活動をしている子供が多いので、その確認も必要。
- ・学校部活動を単位とすると、教育的配慮が必要な生徒も在籍することとなる。その生徒の扱いは、背景を知っている教員でないと難しいと感じた。

参考資料（報道関係）

・北海道新聞（令和7年1月6日）

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1107908/>

・NHK（令和6年1月27日）

<https://www3.nhk.or.jp/sapporo-news/20250127/7000072905.html>

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バレーボール部】



【バレーボール部】



【陸上部】



【陸上部】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【バスケットボール部】



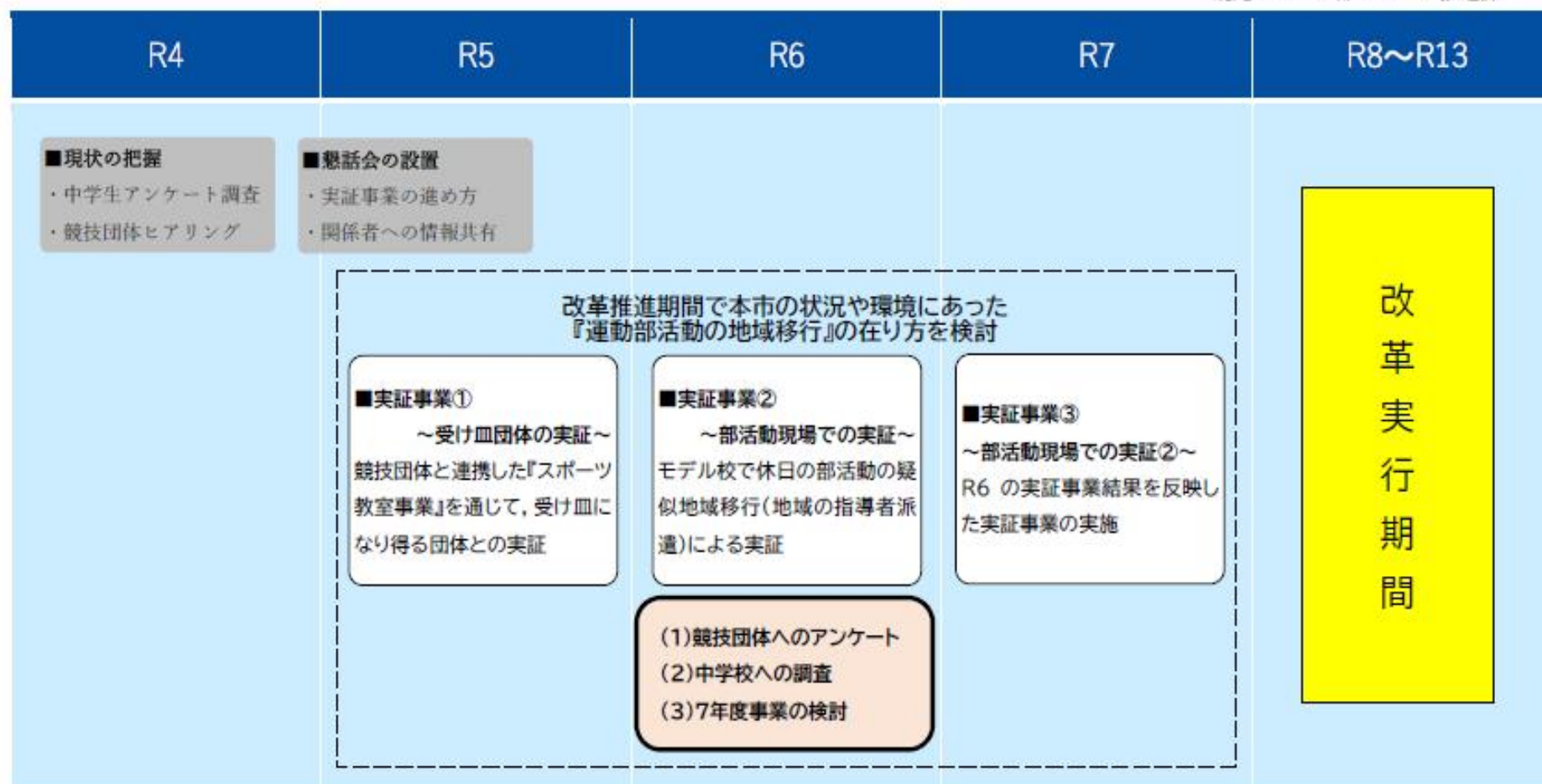
【バレーボール部】

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【旭川市】運動部活動の地域移行に向けたスケジュール

観光スポーツ部スポーツ推進課



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道北見市

自治体名：北海道北見市

担当課名：教育委員会 学校教育部 学校教育課

電話番号：0157-33-3233

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	1427.41 km ²
人口	110,458 人
公立中学校数	14 校
公立中学校生徒数	2,570 人
部活動数	97 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

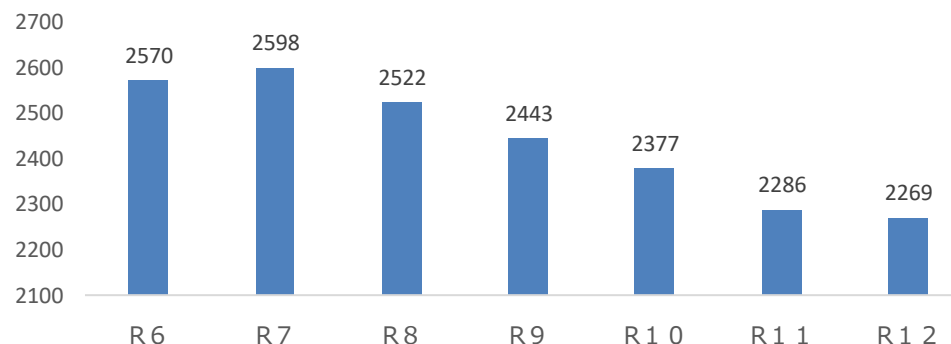
北見市立中学校・義務教育学校の部活動数は、運動部が12種目（77部）、文化部が5種目（20部）あり、部活動加入率は約76%だが、運動部の団体競技では、部員不足のため単独でのチーム編成ができず、15の部活動で合同編成チームを組み大会等に出場している。また、部員不足などにより、募集停止となった部活動も多く、自分の通う学校に希望する部活動がないことで、生徒の選択肢の幅も狭くなってきている。

北見市では、部活動の地域移行を「地域におけるスポーツ・文化芸術活動の充実」と「学校における部活動改革」とおさえ、生徒のニーズに応じた活

動の場を確保する取組を推進し、地域に根差した持続可能な地域クラブ活動を目指すこととしている。具体的には、地域クラブ活動に参加しない生徒の放課後の過ごし方などが心配されることから、多様なスポーツや文化活動などが体験できる学校での「短時間エンジョイ型活動」を導入し、活動機会を確保しながら地域移行を進める。

また、休日と平日とで指導者や活動方針が変わると、生徒たちに戸惑いや混乱が生じるため、平日も含めて令和8年度の中学校3年生の部活動終了以降、運営主体を学校単位から地域単位へ移行することを目指す。

中学校・義務教育学校生徒数見込 令和6年5月1日現在



【課題】

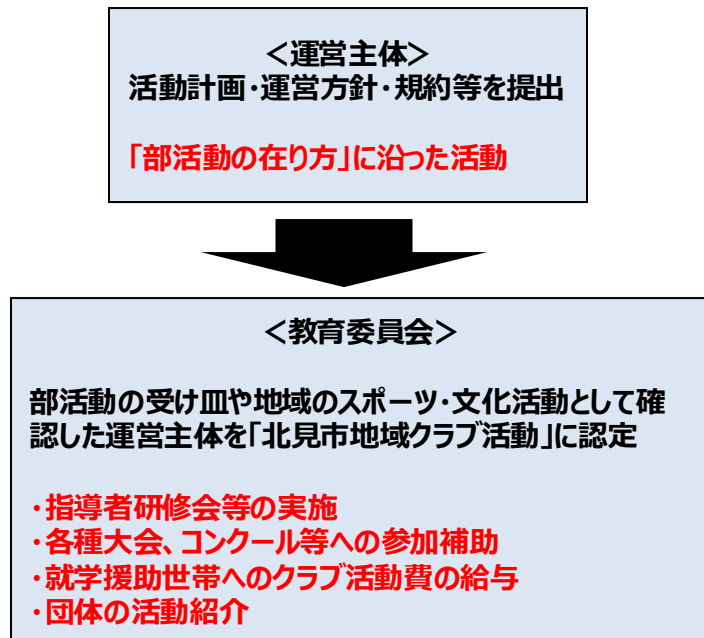
生徒数は、6年後には現在より約300人の減少となる見込み。

地域移行に向けての課題としては、指導者の確保や活動場所の確保のほか、活動に係る生徒の移動負担の軽減などがあげられる。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

（学校教育部：総務課・学校教育課・指導室）

部活動の地域移行に係る各学校との連絡調整、地域移行に係る予算管理、実態調査と環境整備、スポーツ・文化体験会等の運営、地域移行に係る事務全般 他

（社会教育部：生涯学習課・スポーツ課）

スポーツ・文化芸術等関係団体との連絡調整 他

年間の事業スケジュール

令和6年4月	「北見市地域クラブ活動認定制度」の開始
令和6年4月	「拠点校部活動」の開始
令和6年6月	第1回部活動の地域移行検討プロジェクト会議の開催
令和6年7月	スポーツ・文化芸術関係団体等への説明会実施
令和6年8月	部活動の地域移行に向けたスポーツ指導者研修会兼第2回プロジェクト会議の開催
令和6年10月～令和7年2月	実証事業「スポーツ・文化体験会」実施
令和6年10月	拠点校部活動と地域クラブ活動に関するアンケート（対象：小学校5年生～中学校2年生）
令和6年11月	第3回部活動の地域移行検討プロジェクト会議の開催
令和6年12月	「中学校部活動の地域移行に関する市民研修会」実施
令和7年2月	第4回部活動の地域移行検討プロジェクト会議の開催
令和7年3月	中学生を対象とした「スポーツ・文化活動サポートガイド」の発行

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	3校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（3部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	6人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
北見バレーボールクラブ	地域クラブ	男子バレーボール	週2回 （木曜日・土曜日）	19時～21時／ 9時30分～12時30分	中学生 （1～3年生）	通年	北見市南地区トレーニングセンター他	4人	4人	年会費 7,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
エスペランサフットボールクラブ	地域クラブ	サッカー／フットサル	週3回 （月曜日・水曜日・金曜日）	18時30分～20時45分／ 17時30分～19時	中学生 （1～3年生）	通年	北見市東陵公園球技場他	2人	2人	月会費 4,000円～ 6,000円／ 年会費 25,000 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 部活動の地域移行に向けた地域クラブ活動の実証事業「スポーツ・文化活動体験会」
 - ・令和6年10月～令和7年2月までの期間で9種目の体験会を実施。（スポーツ関係6種目、文化関係3種目）
 - ・スポーツ種目：バスケットボール、トランポリン、ラグビー、ペタンク、ブルームボール、カーリング
 - ・実施回数：各種目3～4回の体験会を行い、計29回実施。
 - ・参加人数：延べ参加人数106人。（スポーツ関係72人、文化関係34人）

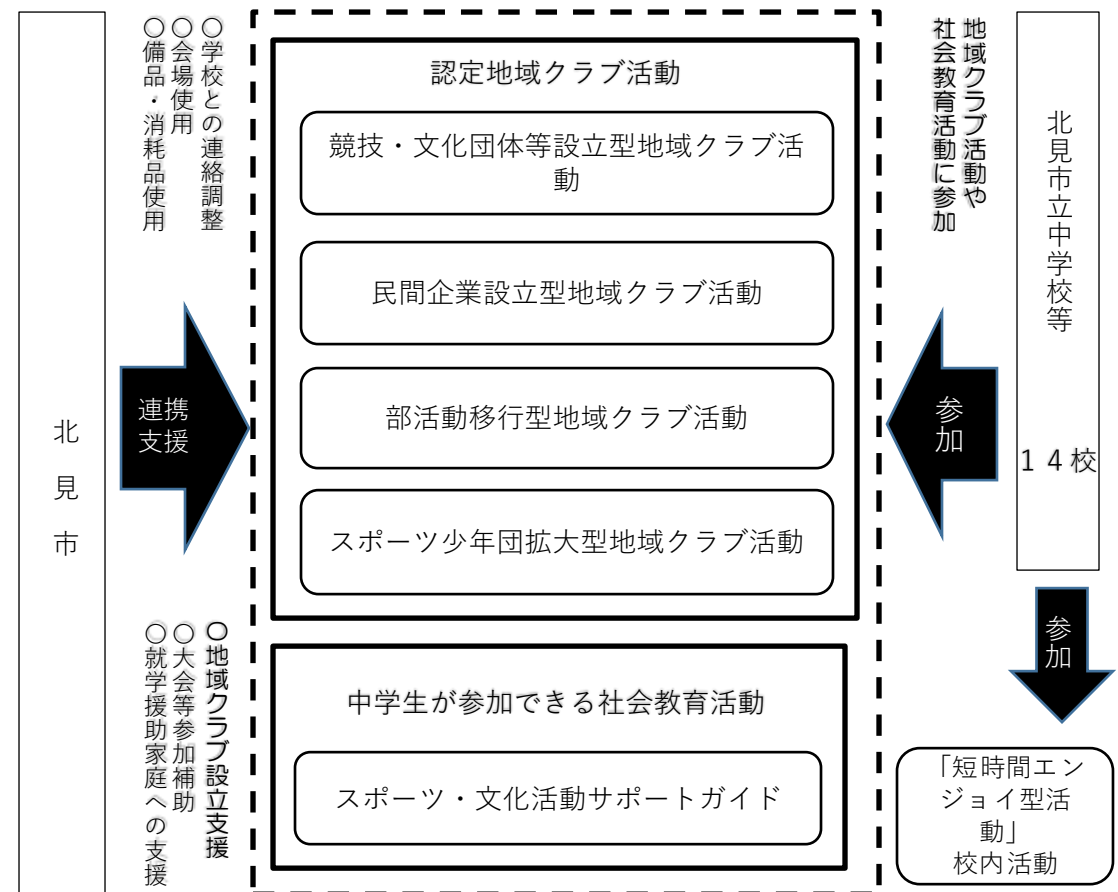
2.実証内容と成果

主な取組例

●スポーツ体験会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バスケットボール、トランポリン、ラグビー、ペタンク、ブルームボール、カーリング
運営団体名	西地区ミニバス少年団、トランポリンクラブKITAMI、オホーツクブルー・R・F・Cジュニア、北見ペタンク協会、北見ブルームボール協会、きたみJr.カーリングくらぶ
期間と日数	10月18日～2月2日 月3～4回程度
指導者の主な属性	各協会、地域クラブの指導者（教員、公務員等）
活動場所	西小学校、三輪小学校、道立北見体育センター、河川敷グラウンド、市民スケートリンクアイスホッケー場、カーリングホール等
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費	各種目一律1回200円
1人あたりの保険料	民間保険会社の傷害保険に加入 生徒・指導者1人あたり：36円～75円 （金額は種目によって異なる）

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○各学校や関係団体等との連絡調整を図るため、部活動地域移行コーディネーターを1人配置し、部活動の地域移行に向けた取組状況の説明や各団体の現状等を把握する。

○運営主体の環境が整った可能な種目から地域クラブ化を図り、学校主体の部活動から地域単位へと移行していく。

○部活動の地域移行検討プロジェクト会議の実施により各学校や関係団体等との連携を図る。

取組の成果

○部活動地域移行コーディネーターを配置したことにより、各学校や関係団体との連絡調整・打ち合わせ会議等を円滑に行うことができた。

○北見市地域クラブ活動認定制度を設け、申請された各団体を地域クラブ活動として認定することで、大会参加補助や就学援助世帯へのクラブ活動費補助などの支援を行うことができた。これまでスポーツ関係12団体、文化関係1団体の計13団体を認定。

○部活動の地域移行検討プロジェクト会議は、設置して3年目となるが、構成メンバーに北見市PTA連合会の役員を加え、17人に増員することで更なる検討協議を進めることができた。年4回のプロジェクト会議を実施し、部活動の地域移行に向けた「北見市モデル」の構築や市民研修会・説明会等の協議を行った。

団体名	課名・役職
北見市教育委員会	学校教育部主幹 (部活動地域移行)
	地域移行コーディネーター
	学校教育部指導室主幹
	学校教育部総務課長
	学校教育部学校教育課長
	社会教育部生涯学習課長
	社会教育部スポーツ課長
	端野教育事務所長
	常呂教育事務所長
北見市校長会	オホーツク管内中体連会長 高米中学校長
	東相内中学校長
	相内中学校教頭
北見市教頭会	光西中学校教頭
北見市スポーツ協会	専務理事
北見文化連盟	理事長
北見市PTA連合会	副会長

令和6年度部活動の地域移行検討プロジェクト会議構成員

コーディネーターの具体的な動きの実績

【部活動地域移行コーディネーター】

- ・各学校や関係団体との連絡調整や地域クラブ設立に向けた助言等
- ・会議資料や「部活動の地域移行NEWS」等のリーフレット作成
- ・拠点校部活動や地域クラブ活動等への参加意向に関するアンケート調査 他

今後の課題と対応方針

- 地域クラブの指導者確保や教職員の関わり方などについて、各学校や関係団体等との協議を継続し、合意形成を図りながら地域連携・地域移行を進めることとする。また、地域クラブの活動場所については、学校施設の使用も含めて調整を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

【部活動の地域移行に向けたスポーツ指導者研修会】

- ・対象：北見市スポーツ協会加盟団体・スポーツ少年団の指導者、各学校部活動の顧問及び関心のある教職員ほか
- ・目的：部活動の地域移行に向けた情報提供や研修を行うとともに、スポーツ指導者の在り方や意義、効率的・効果的な指導等に関する研修を行うことで、指導力や資質等の向上を図る。
- ・講師：北海道教育大学 岩見沢校 キャンパス長 山本理人 教授
- ・テーマ：「ジュニア期におけるスポーツ環境およびその指導のあり方」
 - ・スポーツ指導者のあり方について
 - ・スポーツコーチングについて
 - ・部活動の地域移行について 等
- ・工夫した点：北見市スポーツ協会との共催で実施することにより、会場を北海道立北見体育センターで行うことができ、スポーツ協会加盟団体等にも広く周知することができた。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：令和6年8月20日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：37人
各スポーツ団体・スポーツ少年団指導者、学校教員ほか

受講者の声

参加した指導者等の声

「部活動の現状と地域移行に向けた取組について理解が深まった。」

「地域クラブ活動においては、保護者の関りも重要であることが理解できた。」



「部活動の地域移行に向けたスポーツ指導者研修会」の様子

今後の課題と対応方針

○地域クラブ活動の指導者は、技術指導だけでなく、教育的な面でも生徒や保護者から信頼され、好ましい人間関係を築ける人が指導にあたることが望まれることから、今後も関係団体等と連携を図り、地域クラブ活動に関わる指導者のための研修会等を実施し、指導者育成の機会を確保する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため、校長会やPTA連合会役員会等において、本市の取組状況及び今後の方針等について説明を実施。

○各関係団体に対して、「北見市立学校における部活動の地域移行に関する説明会」を実施。

取組の成果

○校長会やPTA連合会役員会において、丁寧な説明を行うことで、本市の部活動の地域移行に関する取組や方針について理解を深めてもらうことができた。

また、「部活動の地域移行NEWS」の発行や新入学生向け説明資料の配布などにより、広く情報発信を行うことができた。

○関係団体を対象にした説明会を実施することにより、各競技団体や協会・連盟などが地域クラブ設立に向けて準備を進め、地域移行の取組を推進することができた。



「北見市立学校における部活動の地域移行に関する説明会」の様子

「北見市立学校における部活動の地域移行に関する説明会」実績

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ・実施日 令和6年7月23日 | ・内 容 「北見市立学校における部活動の地域移行に関する方針」について |
| ・対象者 スポーツ協会加盟競技団体
オホーツク中体連専門委員会
文化部関係団体 等 | 「部活動の地域移行に向けた北見市モデル」について |
| ・参加者 54人 | |

今後の課題と対応方針

○現在ある部活動種目の地域クラブ設立に向けて、資料提供や助言などの支援を行いながら、更なる連携強化を図る。

○新設された地域クラブの活動場所を確保するため、学校や関係する課との連携を図りながら利用調整を行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○北見市内で活動するスポーツ団体・文化団体等が実施主体となり、子どもたちに多様な活動が体験できる機会を提供することで、将来にわたって継続してスポーツ・文化芸術活動ができる環境の整備を進めることを目的として地域クラブ活動の実証事業「スポーツ・文化体験会」を実施した。

○拠点校部活動及び地域クラブ活動への参加意向を把握するためのアンケート調査を実施し、生徒ニーズの把握に努めた。

活動の詳細			
参加人数	106人 (スポーツ関係72人、文化関係34人)	指導者数	18人 (スポーツ関係12人、文化関係6人)
属性	市内各スポーツ団体所属の指導者		
具体的な内容 (スポーツ関係)	●バスケットボール教室（北見西地区ミニバス少年団） ●トランポリン体験会（トランポリンクラブKITAMI） ●ラグビー体験会（オホーツクブルーR・F・Cジュニア） ●ベタンク体験会（北見市ベタンク協会） ●ブルームボール体験会（北見ブルームボール協会） ●カーリング体験会（きたみJr.カーリングくらぶ）		
子供の声	●コーチの教え方が上手でとても楽しかった。 ●初めての体験だったが楽しくできた。 ●今後もこのような機会があったら参加したい。		
関係者の声	●子どもたちと一緒に活動することで刺激になった。 ●競技を知ってもらうことができた。 ●子どもたちの会員拡大につなげていきたい。		
運営経費	●指導謝礼：348,000円 (スポーツ体験：240,000円) (文化体験：108,000円) ●消耗品費：23,100円 ●保険料：14,187円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

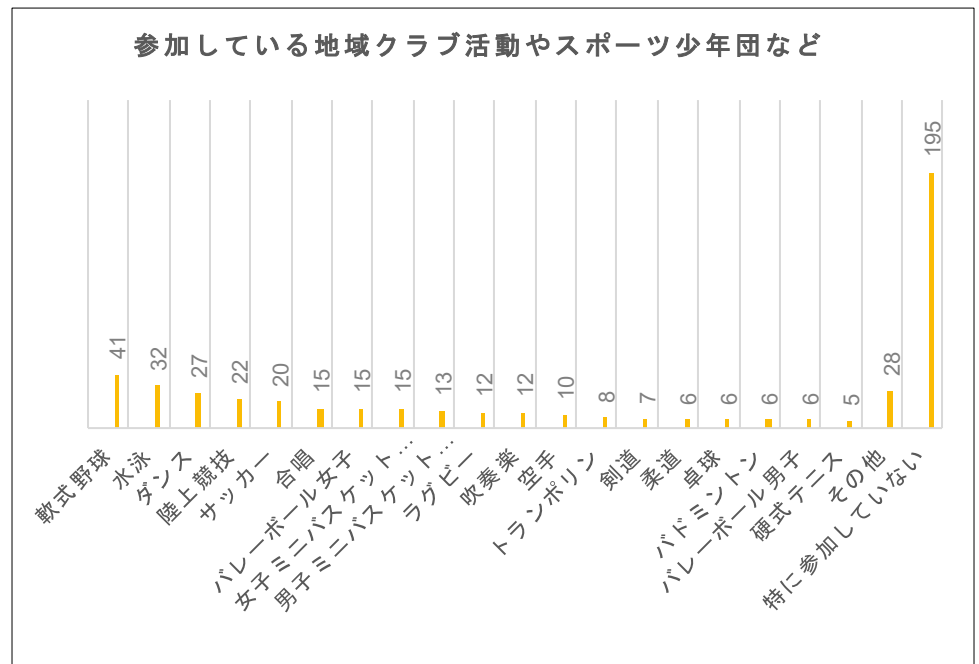
取組の成果

【地域クラブ活動等への参加意向に関するアンケート調査】

- ・調査目的：地域クラブ活動等への参加意向の把握
- ・調査対象：小学校5・6年生の児童と保護者
- ・調査期間：令和6年10月25日～令和6年11月15日
- ・回答率：28.1%
- ・回答結果

現在、参加している地域クラブ活動やスポーツ少年団などの種目については、約41%が「特に参加していない」と回答。種目別では、軟式野球が最も多く、次に水泳、ダンス、陸上競技、サッカーの順となった。

今後の地域クラブ活動等への参加については、「わからない・特に参加しない」という回答が多く、現時点では判断できないようだが、参加を希望する種目では、バドミントンが最も多く、昨今の競技人口の増加や人気の高さを反映した結果となった。



今後の課題と対応方針

○本市では、令和8年度の中学校3年生の部活動終了後に現在の部活動のあり方が大きく変わり、学校での「短時間エンジョイ型活動」を開始する予定であることから、対象となる小学校5・6年生に希望する活動のアン

ケート調査を実施したが、現状ではまだ「わからない」という回答が多かった。今後も子どもたちのニーズを把握し、多種多様な活動に参加できるよう、環境整備を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○部活動の地域移行を土日限定すると、平日は教員、土日の活動や試合は地域の指導者ということになり、活動内容や指導方法の違いなどから生徒の混乱を招くおそれがあるため、北見市では平日も含めて部活動の運営主体を可能な限り、学校から地域へ移行することを目指しており、学校や各関係団体等と連携を図りながら検討協議を進めている。

取組の成果

○すでに地域移行した男子バレーボールの地域クラブでは、平日1日と土曜日に活動している。
○地域クラブ活動の実証事業「スポーツ体験会」では、子どもたちが参加しやすい平日の夜や土日に体験会を実施。



実証事業「バスケットボール教室」の様子

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性
地域クラブ活動の指導者は、各スポーツ団体等の指導者、競技経験者、大学生など幅広い地域の人材を活用した指導体制とする。
・配置の工夫
地域クラブ活動の指導を希望する教職員には、兼職兼業の手続きにより、指導に従事できるようにする。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○スポーツ少年団や地域クラブ活動の指導者には部活動の顧問が関わっている団体もあり、指導者間で連携を図って取り組んでいる。

今後の課題と対応方針

○今後、地域クラブ活動の指導等に関わる学校教職員の勤務の在り方や大会運営への派遣（審判やスタッフ等）に係る調整が必要。
→引き続き校長会や関係団体との協議を進める。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

北見市が進める部活動の地域移行のポイントとしては、まず休日の移行だけでなく、平日も含めて運営主体を環境が整った種目から地域クラブ活動へ移行すること。次に、地域クラブ活動に参加しない生徒の放課後の過ごし方などが心配されることから、多様なスポーツや文化活動などが体験できる学校での「短時間エンジョイ型活動」を導入し、活動機会を確保しながら地域移行を進めること。そして、地域クラブ活動の指導者は、各スポーツ団・文化団体等の指導者、競技経験者、大学生など、幅広い地域の人材を活用した指導体制とし、指導を希望する教職員には、兼職兼業の手続きにより、地域クラブ活動の指導に従事できるよう学校と調整を図りながら進めていくことである。

これらは、「北見市立学校における部活動の地域移行に関する方針」に基づいて実施していくが、具体的には、「部活動の地域移行に向けた北見市モデル」に沿って取り組むこととする。「北見市モデル」では、令和8年度の中学校3年生の部活動終了後に、「短時間エンジョイ型活動」がスタートする予定だが、それまでは拠点校部活動や実証事業の「スポーツ体験会」等を実施しながら、子どもたちの活動の幅を広げる取組を進める。

●成果の評価

令和5年度に実施した部活動の地域移行に関するアンケート調査の結果では、子どもたちは楽しく活動できることを望む回答が多かったことから、学校での「短時間エンジョイ型活動」の導入を検討し、令和8年度を節目に学校部活動のあり方が大きく変わることを関係する各団体等に説明をした。賛否を含め団体からの反響は大きかったが、地域移行の目標年度を定めることと、今後の方針を周知することで各競技団体の意識も高まり、子どもたちの活動機会を確保するため、地域クラブの設立に向けた取組が加速することとなった。

また、地域クラブ活動の実証事業「スポーツ・文化体験会」の実施により、市内のスポーツ・文化団体が積極的に事業に参加し、体験会を運営することで各団体の活動が活性化され、参加した子どもたちも、これまで学校では体験することのなかったスポーツや文化に触れることができ、活動の幅を広げる取組となった。

●今後に向けて

地域クラブ活動の実証事業では、学校の部活動に関係する種目を中心に「モデルクラブ活動」として取り組むなど、地域クラブ活動の運営主体となる団体の準備を進めていく。

また、地域移行に向けた情報発信として、引き続き「部活動の地域移行NEWS」等を発行するとともに、スポーツ指導者研修会や市民研修会などを開催し、関係団体や保護者等との合意形成を図っていく。

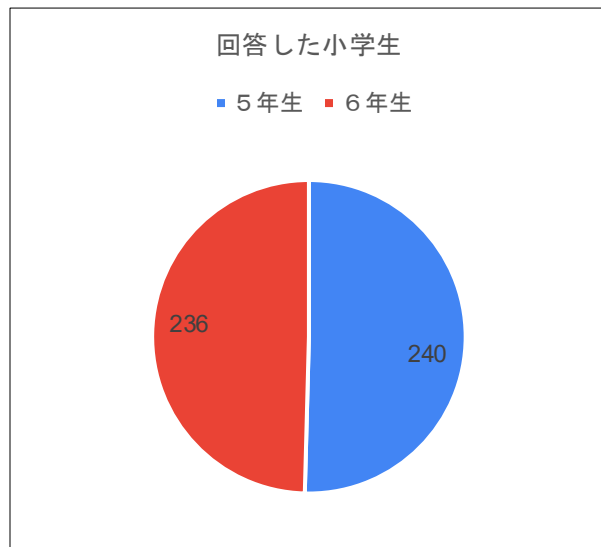
本市では、部活動の地域移行を「地域におけるスポーツ・文化芸術活動の充実」と「学校における部活動改革」とおさえ、子どもたちが生涯にわたってスポーツ・文化芸術活動に親しむことができるよう、活動機会の環境整備を進めていくこととする。

2.実証内容と成果②

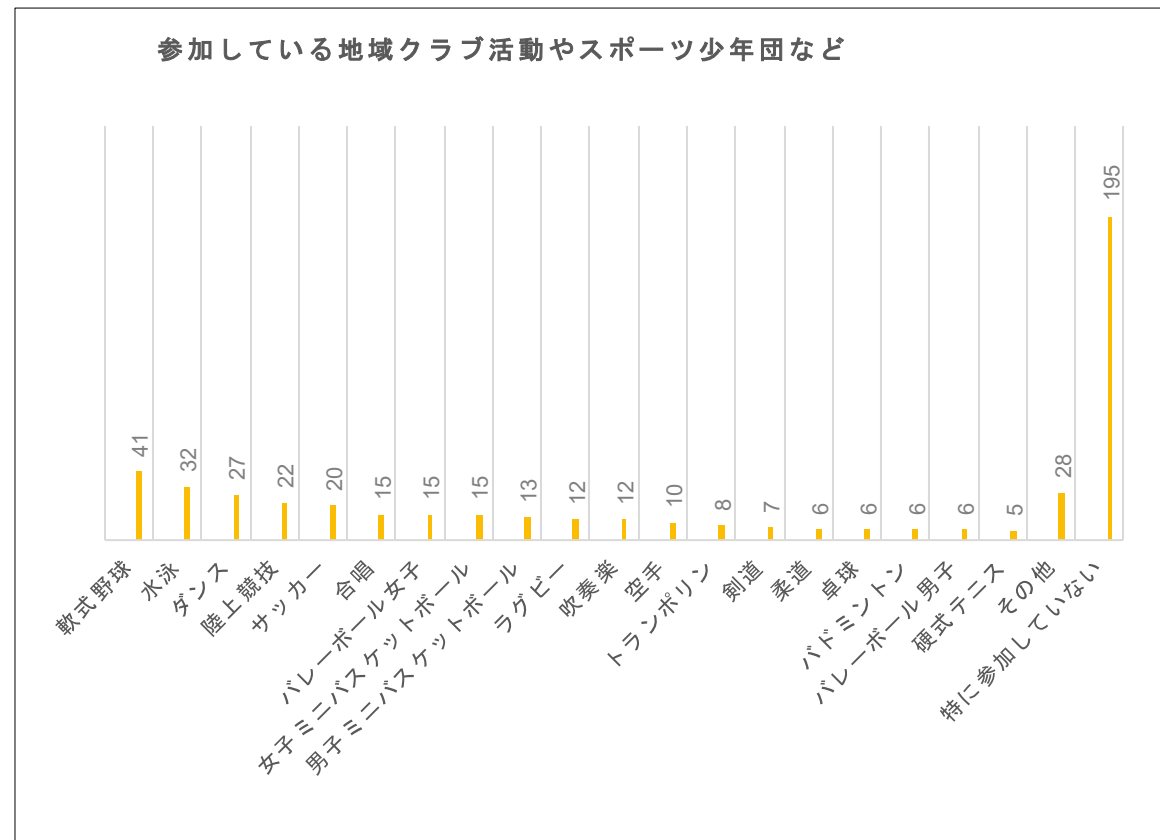
アンケート結果

●アンケート結果：地域クラブ活動等への参加意向に関する調査

Q1.現在の学年は？



Q2.現在参加している地域クラブ活動やスポーツ少年団などの種目・活動は？（複数回答可）

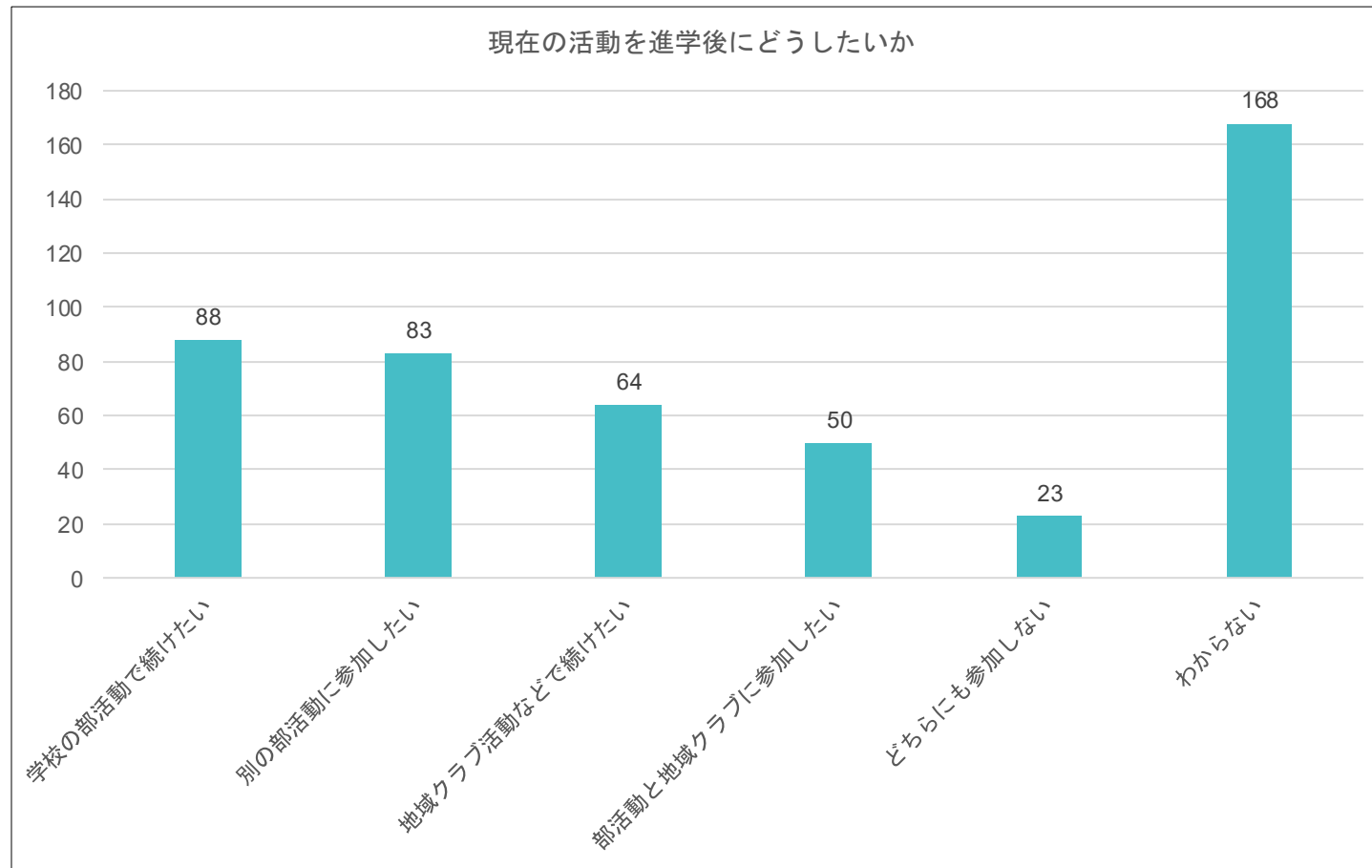


2.実証内容と成果②

アンケート結果

●アンケート結果：地域クラブ活動等への参加意向に関する調査

Q3.中学校等に進学後、現在の活動はどうするか？

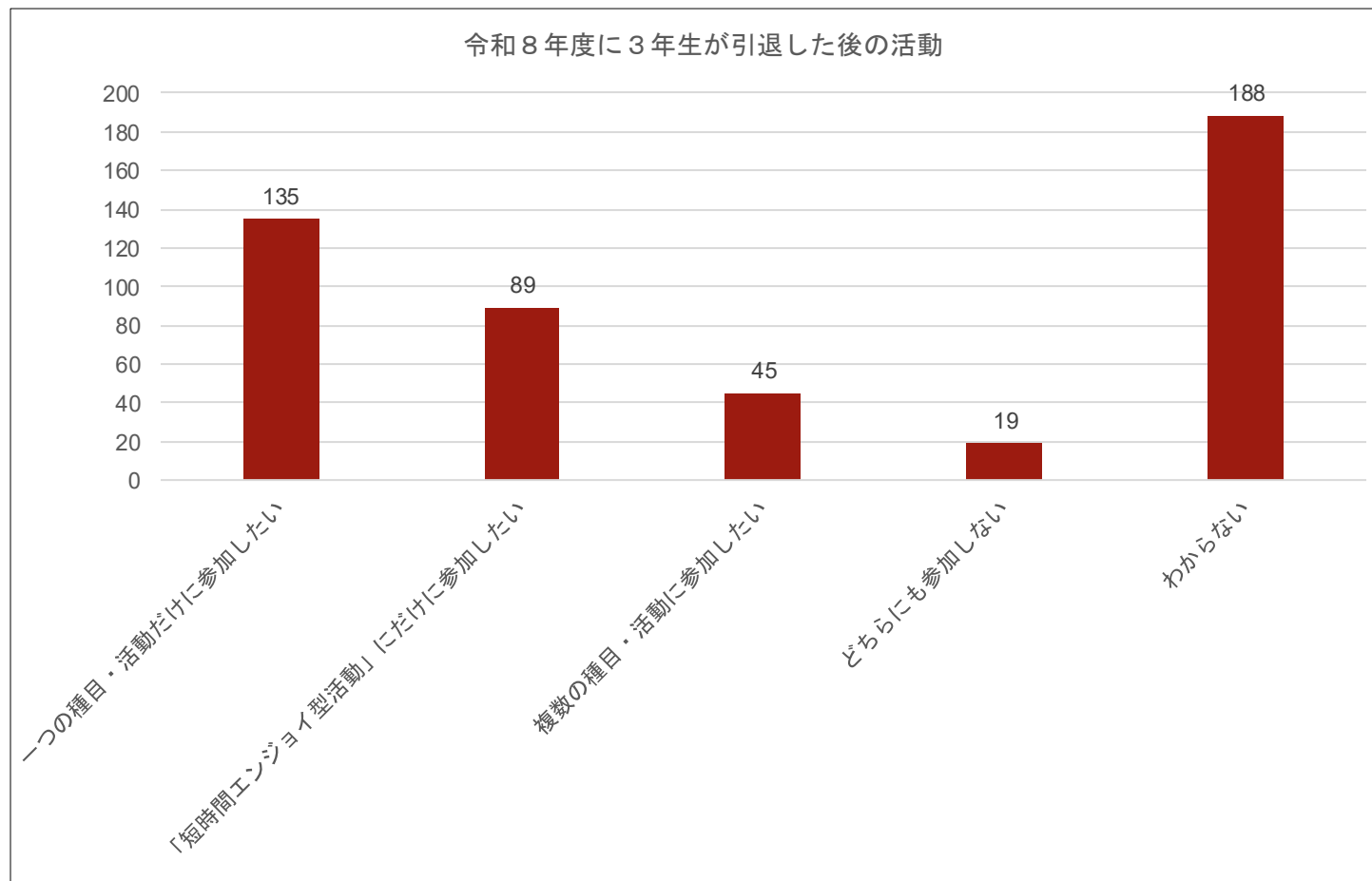


2.実証内容と成果②

アンケート結果

●アンケート結果：地域クラブ活動等への参加意向に関する調査

Q4.令和8年度以降、地域クラブ活動等に参加するか、短時間エンジョイ型活動に参加するか？

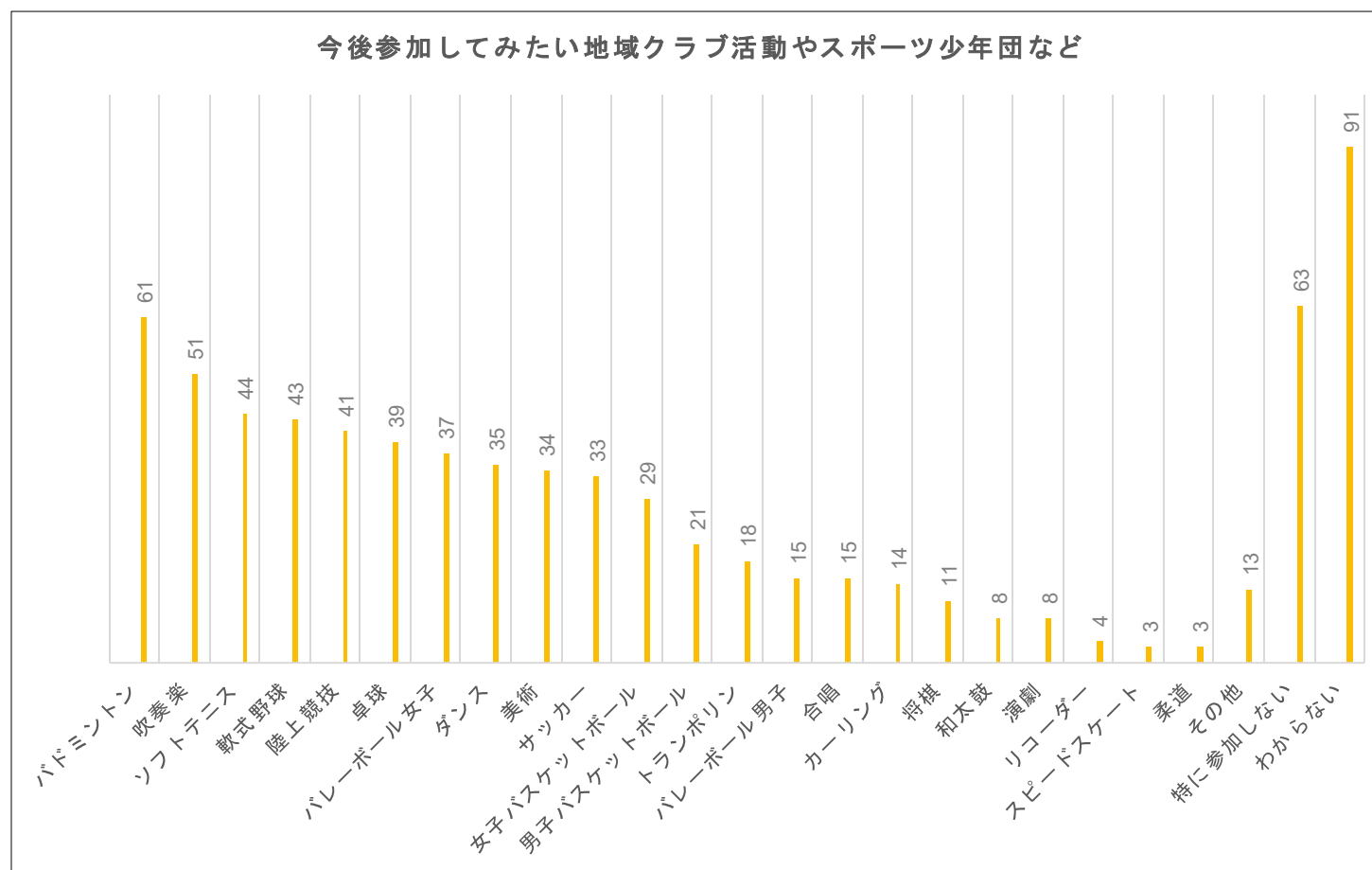


2.実証内容と成果②

アンケート結果

●アンケート結果：地域クラブ活動等への参加意向に関する調査

Q5.今後参加してみたい地域クラブ活動やスポーツ少年団等の種目・活動は？（複数回答可）



2.実証内容と成果②

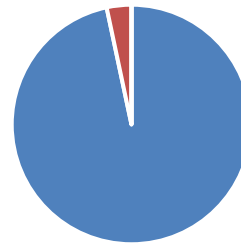
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果：地域クラブ活動の実証事業「スポーツ・文化体験会」

Q1.楽しく活動できたか？

楽しく活動できたか

楽しく活動できましたか			
そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わ ない
87	3	0	0

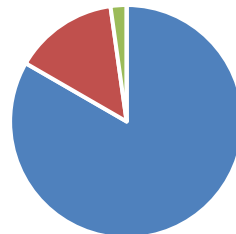


■ そう思う ■ どちら思う ■ どちら思わ
ない ■ そう思わ
ない

Q2.今後も参加したいか？

今後も参加したいか

今後、参加したいと思いますか			
そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わ ない
75	13	2	0



■ そう思う ■ どちら思う ■ どちら思わ
ない ■ そう思わ
ない

●参加者の声

小学5年生（トランポリン）

高く跳ぶことができて楽しかった。
先生が高く跳んですごいと思った。
また次も参加したいと思った。

小学6年生（カーリング）

他校の子たちと楽しくカーリングができた。
もっとコツをつかんで上手に投げられるようにがんばりたい。
試合に勝って楽しかった。また参加したい。

中学1年生（バスケットボール）

コーチの教え方が上手でわかりやすかった。
すごく楽しかった。またやりたい。
今後のバスケに活かしたい。
ゲームをやったのが楽しかった。

中学1年生（ブルームボール）

楽しかった。また体験会に参加したい。
もっと色々な人にブルームボールを知ってもらいたい。
一所懸命やっていい汗をかくことができた。

2.実証内容と成果③

広報資料

部活動の地域移行に向けたクラブ活動の実証事業「スポーツ・文化体験会」参加募集チラシ（表面）

部活動の地域移行に向けた地域クラブ活動の実証事業

やってみよう！ 気軽に参加できる

スポーツ・文化体験会



まず
裏面の表から
気になる体験
会を探そう



つぎに
保護者に
相談しよう



そして
保護者と
一緒に
申し込もう

参加料は
1回 200円

さあ！
体験会に
参加して
楽しもう



部活動の
地域移行とは
中学校・義務教育学校の部活動
を学校と地域が連携しながら地域の
団体等が実施する活動へと段階的に
移行していくことで子どもたちに多
様な活動が体験できる機会を提
供し、将来にわたって継続して
スポーツ・文化活動ができ
る環境の整備を進める
ことです。

申し込んだあとは
用具・服装の準備をし
参加料を持って
体験会の日に
会場に行こう！



【参加申込】

- ・応募フォームまたは電話・メールでの申込になります。**※それぞれの体験会の3日前までに申し込んでください。**
- ・参加を希望する人は、保護者と相談してから
- ①参加体験会名②学校名③学年④氏名⑤連絡先（保護者メール・電話番号）をフォームに入力してください。
- ※電話・メールでの申込は裏面の問合せ電話番号・メールアドレスをお願いします。

2.実証内容と成果③

広報資料

部活動の地域移行に向けたクラブ活動の実証事業「スポーツ・文化体験会」参加募集チラシ（裏面）

【スポーツ関係】 日時が重ならなければ複数の体験会に申し込むこともできます。定員に達した場合は先着順となります。

No.	体験会名(種目)	日時	会場	対象	定員	参加料	持ち物	運営団体など
1	バスケットボール教室①	10月18日(金) 17:00~19:00	北見市勤労青少年ホーム体育室(常盤町2丁目)	中学校1・2年生女子 バスケットボール経験者	6名	200円	シューズ等バスケットに必要な物一式	北見西地区ミニバス少年団
2	バスケットボール教室②	10月25日(金) 17:00~19:00	北見市立西小学校体育館(とん田東町688番地)		6名	200円		
3	バスケットボール教室③	11月29日(金) 17:00~19:00	北見市立三輪小学校体育館(中央三輪8丁目)		6名	200円		
4	トランポリン体験会①	10月23日(水) 17:00~19:00	北海道立北見体育センター アリーナ (北見市東陵町27番地)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	12名	200円	上靴・飲み物 運動ができる服装	トランポリンクラブ KITAM
5	トランポリン体験会②	10月25日(金) 17:00~19:00			12名	200円		
6	トランポリン体験会③	11月1日(金) 17:00~19:00			12名	200円		
7	トランポリン体験会④	11月6日(水) 17:00~19:00			12名	200円		
8	ラグビー体験会①	10月26日(土) 13:00~15:00	 南町河川敷グラウンド (若松橋地区常呂川左岸球技場)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	20名	200円	屋外で運動ができる服装 (多少汚れます) 汗拭きタオル、飲み物	オホーツクブルー ジュニア
9	ラグビー体験会②	11月2日(土) 13:00~15:00			20名	200円		
10	ラグビー体験会③	11月9日(土) 14:00~15:30			20名	200円		
11	ベタング体験会①	11月9日(土) 14:00~16:00	北見市富野町サードーム'94 (北見市富野町富野232番地2)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	20名	200円	軽い運動ができる服装	北見市ベタング協会
12	ベタング体験会②	12月8日(日) 10:00~12:00			20名	200円		
13	ベタング体験会③	1月19日(日) 10:00~12:00			20名	200円		
14	ベタング体験会④	2月2日(日) 10:00~12:00			20名	200円		
15	ブルームボール体験会①	1月7日(火) 13:00~15:00	北見市民スポーツリンク アイスホッケー場 (北見市光葉町4番地1)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	15名	200円	運動しやすい防寒着 汗拭きタオル、飲み物	北見ブルームボール協会
16	ブルームボール体験会②	1月8日(水) 13:00~15:00			15名	200円		
17	ブルームボール体験会③	1月9日(木) 13:00~15:00			15名	200円		
18	カーリング体験会①	1月12日(日) 14:00~16:00	アルゴグラフィックス 北見カーリングホール (北見市杜陵町603番地14)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	10名	200円	運動しやすい防寒着 用具使用料120円	きたみ ♪カーリングくらぶ
19	カーリング体験会②	1月19日(日) 14:00~16:00			10名	200円		
20	カーリング体験会③	1月26日(日) 14:00~16:00			10名	200円		

【文化関係】 日時が重ならなければスポーツ関係と文化関係の両方に申し込むこともできます。

No.	体験会名(ジャンル等)	日時	会場	対象	定員	参加料	持ち物	運営団体など
1	合唱体験会①	10月21日(月) 19:00~21:00	北見市民会館1号室 (北見市常盤町2丁目1-10)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	12名	200円	特になし	オホーツク混声合唱団
2	合唱体験会②	10月28日(月) 19:00~21:00			12名	200円		
3	合唱体験会③	11月11日(月) 19:00~21:00			12名	200円		
4	和太鼓体験会①	10月25日(金) 17:00~19:00	高栄地区住民センター (北見市高栄西町4丁目14-9)	小学校5年生~中学校3年生 男女、経験問いません	12名	200円	運動ができる服装 リストバンド 汗拭きタオル	北見風雪太鼓保存会
5	和太鼓体験会②	11月8日(金) 17:00~19:00			12名	200円		
6	和太鼓体験会③	11月22日(金) 17:00~19:00			12名	200円		
7	短歌体験会①	11月16日(土) 13:00~15:00	北見市民会館2号室 (北見市常盤町2丁目1-10)	中学校1年生~3年生 男女、経験問いません	5名	200円	国語辞典 筆記用具	きたみ短歌会
8	短歌体験会②	12月21日(土) 13:00~15:00			5名	200円		
9	短歌体験会③	1月18日(土) 13:00~15:00			5名	200円		

【問合せ】 北見市教育委員会 学校教育部 部活動地域移行担当
 電話：0157-33-3233 E-mail：toshiaki.hosokawa@city.kitami.lg.jp

各体験会の種目やジャンルの
説明などはこちらから



2.実証内容と成果③

広報資料

令和7年度「拠点校部活動」受付開始案内チラシ（表面）

令和7年4月～

拠点校部活動の 受付開始！

北見市教育委員会



申込にあたっての留意事項

- 移動は在籍校と拠点校の指示により、保護者送迎、徒歩、自転車（ヘルメット着用）、公共交通機関となります。
- 拠点校部活動は1年ごとの開設です。拠点校の状況により継続できない場合があります。



拠点校の部活動の方針や生活指導に従って活動してください。

大会等への参加は中体連や競技団体の規定によります。

拠点校部活動は中体連の取組のため、文化部には対応していません。



拠点校とは、通学する中学校・義務教育学校（在籍校）に希望している運動部活動がない場合に拠点校として指定された学校が、部活動のみの参加を希望する生徒を受け入れる方式の部活動です。

拠点校 A 中学校区 在籍校

B 中学校 部活 通学 A 中学校

受け入れ可能な希望する運動部がある 生徒 希望する運動部がない

申込方法・手続き

申込を希望する場合は、「実施要項」の内容を確認し、「参加申込書・保護者同意書」に必要事項を記入の上、下図のように提出してください。受入の可否、活動開始日等については別途連絡します。

「実施要項」及び「参加申込書・保護者同意書」は、北見市教育委員会のホームページからダウンロード、または見学先の拠点校で受け取ってください。



要項・申込書・同意書

<https://www.city.kitami.lg.jp/administration/education/detail.php?content=13139>

申込期間：見学後～令和7年2月28日（金）

小学校6年生
義務教育学校6年生

通学している小学校
義務教育学校

在籍予定の中学校
義務教育学校

中学校1・2年生
義務教育学校7・8年生

通学している中学校
義務教育学校（在籍校）

拠点校

※申し込む前に見学が必要です

下記の期間に拠点校に電話連絡し、見学日時を確認してください。令和7年1月20日（月）～1月31日（金）

見学後



※令和6年度拠点校部活動に参加している生徒で、同じ部活動を継続して希望する場合、見学は不要です。（申込は必要）

2.実証内容と成果③

広報資料

令和7年度「拠点校部活動」受付開始案内チラシ（裏面）

令和7年度に部員募集を行う部活動の一覧（予定）

	南	東	光	北	高	小	北	上	相	東	端	常	留	お
	東	陵	西	西	栄	泉	光	常	内	相	野	呂	辺	ん
	東	陵	西	西	栄	泉	光	常	内	相	野	呂	辺	ん
陸上競技	○	○	○	○	○	○	○					○		○
サッカー	○	○	○	○	○	○	○					○		○
男子バスケットボール	○				○	○	○				○	○		
女子バスケットボール	○				○	○	○				○			○
軟式野球	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
男子バレーボール	○					○	○							
女子バレーボール	○	○	○	○	○	○	○				○	○		
ソフトテニス	○	○	○	○	○	○		○		○				
卓球	○	○	○	○	○	○	○				○			
バドミントン				○					○					
ソフトボール				○										
剣道				○		○								
拠点校部活動は中体連の取組のため、文化部には対応していません。														
吹奏楽	○	○	○	○	○						○	○	○	
合唱						○								
音楽														○
文化（演劇・リコーダー）			○	○					○				○	
美術	○		○		○	○	○			○				

活動の円滑な運営のために保護者の皆様のご理解・ご協力をお願いします

※活動中及び交通事故を除く移動中の事故については独立行政法人
日本スポーツ振興センターの保険が適用されます。
※大会等への参加条件は、その種目の規定・開催要項によります。

問い合わせ先

北見市教育委員会学校教育部
部活動地域移行担当【電話：0157-33-3233】

令和7年度 拠点校部活動を行う種目と学校など

拠 点 校	開設種目	活動日時	募集範囲・人数
小泉中学校 田端町 32-26 TEL：0157-25-4913	サッカー	平日：月・火・水・金 ※変更あり 16:00～18:00（冬季 17:30） 休日：土日どちらか 9:00～12:00	サッカー部がない 市内の中学校・義務教 育学校
	サッカー	平日：4日（月・火・木・金） 16:00～18:00 （全体練習は 16:30～18:00 を予定） 休日：5～9 月は土曜日にリーグ戦	サッカー部がない 市内の中学校・義務教 育学校
北中学校 美山町南 10 丁目 31-1 TEL：0157-23-7316	ソフト ボール	平日：4日（月～金で1日休み） 16:00～18:00 休日：土日のどちらか1日 9:00～12:00	市内の中学校・義務教 育学校
	バドミ ント	平日：4日（月～金で1日休み） 16:00～18:00 休日：土日のどちらか1日3時間程度 （※体育館の都合により時間は変わります）	バドミントン部がない 市内の中学校・義務教 育学校 ※人数によっては制限あり
	男子 バスケット ボール	平日：16:00～18:00 休日：1日 土日のどちらか午前か午後の1日3時間程度	男子バスケットボール 部がない市内の中学 校・義務教育学校
	ソフト テニス	月・火・木・金・土 平日：16:00～18:00 休日：8:30～11:30 （※東陵テニスコートの場合は有）	ソフトテニス部がない 市内の中学校・義務教 育学校
高栄中学校 高栄西町 10 丁目 12-1 TEL：0157-22-1921	野 球	平日：4日（月～金で1日休み） 16:00～18:00 休日：土日のどちらか1日 9:00～12:00	野球部がない市内の 中学校・義務教育学校
	野 球	平日：放課後～18:00 完全下校 （4月～10月） 放課後～17:30 完全下校 （11月～3月） ※月～金で1日休み 休日：3時間 ※土日どちらか1日 ※詳細説明は見学時	野球部がない市内の 中学校・義務教育学校
	卓 球	平日：放課後～18:00 完全下校 （4月～10月） 放課後～17:30 完全下校 （11月～3月） ※月～金で1日休み 休日：3時間 ※土日どちらか1日 ※詳細説明は見学時	卓球部がない市内の 中学校・義務教育学校 ※人数によっては制限あり

希望する拠点校部活動に参加できる学校と人数など

2.実証内容と成果③

広報資料

部活動の地域移行NEWS (Vol.1)

+

部活動の地域移行 NEWS

Vol.1
令和6年8月

— 北見市が進める部活動の地域移行について —

北見市教育委員会
教育長 佐々木 賢 —

いま、中学校の部活動が大きく変わろうとしています。
国は、急速に進む少子化や学校の働き方改革を踏まえての持続可能なスポーツ・文化芸術活動継続のため、部活動の段階的な地域移行を打ち出しました。
本市では、令和4年度から部活動の地域移行に向けた検討協議を進めてきた結果、令和8年度を節目に、現行の中学校部活動制度を大きく変え、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動は地域での自主活動とする方針を定めました。
これまで、各団体の皆さんが子どもたちの健全育成に努め、素晴らしい成果を上げてきたことに敬意を表します。今後も、子どもたちが次世代の担い手として、本市のスポーツ・文化芸術を将来につないでいけるよう、中学生の地域活動を積極的にサポートしていただきたいと思います。
そのためには、生徒の活動の場となる地域に根差した地域クラブの設立と持続できる団体運営が必要であると考えています。
市教委としては、地域移行までの約2年間で実証事業に取り組むなど、地域クラブ活動に対して、できる範囲での助言とサポートを行っていきます。
これまでの部活動が大きく変わることになりますが、市民の皆さんには、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動機会の充実について、さらなるご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

「北見市立学校における部活動の地域移行に関する説明会」開催

令和6年7月23日、釧路総合支所において、北見市の中学校等に部活動がある種目に関係する北見市スポーツ協会加盟団体、文化団体、中学校体育連盟関係、部活動の地域移行検討プロジェクトチームに参加いただき、標記説明会を開催しました。
教育長の挨拶の後、担当から下記の内容について説明をしました。参加者からいただいた多くの質問や意見・要望を今後の部活動の地域移行に向けて、参考にさせていただきます。

- ・北見市立学校における部活動の地域移行に関する方針について
- ・令和6年度北見市内部活動部員数について
- ・北見市モデルについて
- ・地域クラブの設立に向けて

部活動の地域移行に向けた北見市モデルのイメージ

② 短時間エンジョイ型活動
(平日、短時間、多目的の活動)

令和8年度の3年生の部活動終了以降に学校の部活動が大きく変わります。

生徒は ①地域クラブ活動等に参加し、中体連や各種大会、コンクール等に出場する。
②学校のエンジョイ型活動に参加する。
③「①②のどちらにも加入しない。」のいずれかを選択することになります。

① 地域クラブ活動

クラブチーム
文化芸術団体
スポーツ少年団

今後の予定

- ★地域クラブ活動実証事業「スポーツ・文化体験会」 令和6年10月開始予定
- ★今後、保護者等に向けた部活動の地域移行に関する説明会の開催を予定しています。

北見市は令和8年度以降 学校主体の部活動を地域クラブ活動へ移行します

部活動の地域移行NEWS (Vol.2)

+

部活動の地域移行 NEWS

Vol.2
令和6年11月

北見市が進める部活動の地域移行について

北見市は、令和8年度を節目に中学校部活動を大きく変え、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動は地域での自主活動とする方針を定めました。このことにより、令和8年度の3年生が部活動を終了した後、生徒は「地域クラブ活動」等に参加し大会やコンクールの出場を目指すか、学校での「短時間エンジョイ型活動」に参加する等の活動になります。

学校での短時間エンジョイ型活動
(平日、短時間、多目的の活動)

令和8年度の3年生の部活動終了以降に学校の部活動が大きく変わります。

地域クラブ活動など

地域クラブ活動
クラブチーム
文化芸術団体
競技団体
スポーツ少年団

部活動の地域移行に向けた北見市モデルのイメージ

令和7年度の部活動は
これまでと変わります

「スポーツ・文化体験会」実施中！
これから開始する体験会もあり、参加者募集中です！

和太鼓体験の様子

合唱体験の様子

ラグビー体験の様子

中学校部活動の地域移行に関する市民研修会

～北見市の取組状況とこれからのスポーツ・文化活動について～

日時：令和6年12月4日(水) 19時～
会場：北海道立北見体育センター講堂
対象：北見市民等
内容：①説明「北見市の部活動の地域移行に向けた取組状況について」
②講演「部活動の地域移行に関する今日的課題」～子どもたちのスポーツ・文化活動の機会が不明になるなか～
講師：部活動の在り方検討支援アドバイザー 井上 諭一 氏

※申込は不要です。
18時30分より受付を行いますので、直接会場へお越しください。
部活動の地域移行について、保護者向けの説明もしますので是非ご参加ください。

主催：北見市教育委員会
共催：公益財団法人 北見市スポーツ協会・特定非営利活動法人 北見文化連盟

広報資料

部活動の地域移行NEWS (Vol.3)

「中学校部活動の地域移行に関する市民研修会」案内チラシ


部活動の地域移行 NEWS
Vol.3
令和7年2月

中学校部活動の地域移行に関する市民研修会の様子

令和6年12月4日(水)、北海道立北見体育センターにおいて約60名の市民の皆様に参加いただき、様記研修会を開催しました。北見市の地域移行に関する取組状況の説明の後、部活動の在り方検討支援アドバイザーの井上諭一氏に講演をしていただきました。
参加者からいただいた質問や意見を今後の部活動の地域移行に向けて、参考にさせていただきます。



講演内容の概略
 ○地域移行の背景と国や北海道の動き
 ○なぜ地域移行が進まないのか
 ○地域移行のポイント
 ○目指す姿、イメージは？

研修会概要、説明資料、講演資料は、こちらからご覧ください



<https://www.city.kitami.lg.jp/administration/education/detail.php?content=123500>

北見市の取組状況の概略
 ○部活動の現状と在り方における課題
 ○北見市が進める部活動の地域移行の経過とポイント
 ○北見市立学校における部活動の地域移行に関する方針
 ○北見市モデルと短時間エンジョイ型活動



◆北見市が認定した地域クラブ活動◆

中学生が活動している団体の内、申請して北見市の認定を受けた団体 (R6年12月末現在)

【認定地域クラブ活動 13団体】

- ・北見リバーボールクラブ (男子リバーボール)
- ・北見リバーボールクラブ (女子リバーボール)
- ・心技体部(部連 (東道))
- ・北見リバーボールクラブ (東道)
- ・エスベランサFC (サッカー)
- ・オホーツクAC (陸上競技)
- ・北見ジュニア陸上競技クラブ (陸上競技)
- ・北見市バドミントンスポーツ少年団 (バドミントン)
- ・陸上競技部 (東道)
- ・トランボンクラブKITAM (トランボン)
- ・オホーツクフルーレンFCジュニア (ラグビー)
- ・北見クラスジュニア合連 (合連)

◆部活動種目の地域クラブ等の設立に関する状況◆

・陸上競技	⇒ 境町中 オホーツクAC 北見ジュニア陸上競技クラブ
・サッカー	⇒ 北見市、西道、南(東)地区にサッカークラブ (R8年度予定)
・バスケット	⇒ 少年団での受け入れや新たな地域クラブ設立を検討中 (R8年度予定)
・バレーボール	⇒ 北見リバーボールクラブ
・女子バレー	⇒ 西道、中央地区、東道地区にクラブを検討中 (R8年度予定)
・ソフトテニス	⇒ 北見中学校ソフトテニスクラブ (地区で活動) を検討中 (R8年度予定)
・バドミントン	⇒ (後) 北見北バドミントンクラブ準備中 (R8年度予定)
・ソフトボール	⇒ ソフトボールクラブ設立に向けて検討中 (R8年度予定)
・射撃	⇒ 各団体の地域移行 北見射撃会
・合気道	⇒ 北見クラスジュニア合連 (R7.4~)
・吹奏楽	⇒ 検討中
・音楽、文化、美術	⇒ 未定

◆部活動で設置されていない中体連種目の状況◆

・アイスホッケー	⇒ 北見ミントジュニア
・スピードスケート	⇒ 北見スピードスケート少年団
・アルペンスキー	⇒ 北見ジュニアアルペンレーシング

※設立種間済みの団体

【問合せ】
 学校教育部 部活動地域移行 0157-33-3233

中学校部活動の 地域移行に関する 市民研修会

～北見市の取組状況とこれからの
スポーツ・文化活動について～

日時: 令和6年12月4日(水) 19時～

会場: 道立北見体育センター講堂

対象: 北見市民等

申込は不要です
18時30分より受付を行いますので直接会場へお越しください

【問合せ】
 学校教育部 部活動地域移行 0157-33-3233

説明

「北見市の
取組状況について」

講演

「部活動の
地域移行に関する
今日的課題」

～子どもたちのスポーツ・文化活動の機会が
行方不明にならないために～



講師
井上 諭一 氏

特定非営利活動法人 枝幸三笠山スポーツクラブ理事長
 ・北海道スポーツ協会 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長
 ・北海道スポーツ協会 地域スポーツ推進体制基盤強化連絡協議会構成員
 ・北海道教育委員会 部活動の在り方検討支援アドバイザー
 ・北海道教育委員会 部活動・地域クラブ活動関係者会議構成員

主催: 北見市教育委員会
共催: 公益財団法人 北見市スポーツ協会
 特定非営利活動法人 北見文化連盟

2.実証内容と成果④

参考資料（地域クラブ活動実証事業「スポーツ・文化体験会」活動写真）



【トランポリン体験会】



【ラグビー体験会】



【ペタンク体験会】



【ブルームボール体験会】

2.実証内容と成果④

参考資料（地域クラブ活動実証事業「スポーツ・文化体験会」活動写真／地域移行に関する市民研修会写真）



【カーリング体験会】



【地域移行に関する市民研修会】



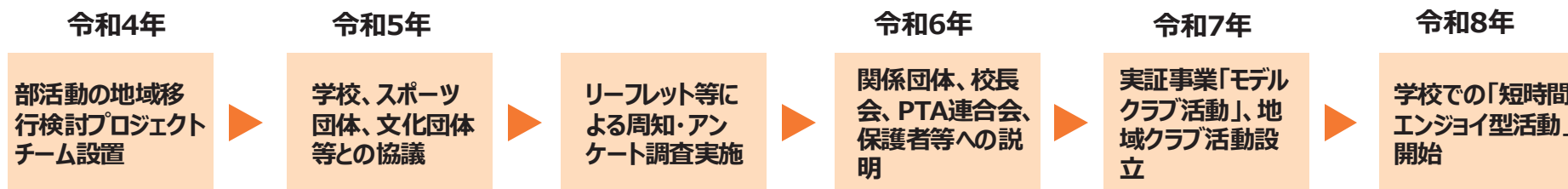
【カーリング体験会】



【地域移行に関する市民研修会】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

学校、スポーツ協会、スポーツ少年団、各競技団体、PTA連合会教育委員会、部活動地域移行コーディネーター

●経過

令和4年度より部活動の地域移行検討プロジェクトチームを設置し、関係団体との検討協議を進め、令和5年度に「北見市立学校における部活動の地域移行に関する方針」を策定した。さらに令和6年度には、校長会と連携を図り、学校での活動も継続する「短時間エンジョイ型活動」の導入を含めた「部活動の地域移行に向けた北見市モデル」を作成し、令和8年度を節目に中学校の部活動のあり方が大きく変わることを方針として取組を進めることとした。

●実施内容

各学校や中体連専門委員会に対して、地域移行の取組を丁寧に説明することで一定の理解を得ることができた。児童・生徒、保護者、教員には、リーフレットの配布とアンケート調査の実施により、ニーズの把握に努め、ホームページを活用した市民周知も行った。

「北見市モデル」作成後は、関係団体への説明会を開き、部活動の現状や市の取組について、理解と協力を求めた。

また、市民・保護者等に向けた説明会と研修会を実施するとともに、「部活動の地域移行NEWS」を発行することで、地域移行に向けた事業や地域クラブの設立状況など、随時情報発信に努めた。

●実施にあたって生じた課題

広い市域のため、地域クラブ活動に参加する生徒の移動手段が課題の一つであり、保護者に対して理解を求める必要がある。今後中学生になる保護者からは不安の声もあるため、各中学校の入学説明会で配布する資料を作成し、地域移行に関する周知を行った。また、市民説明会に参加できなかった保護者等に向けた資料や説明会の概要を市のホームページに掲載した。

●今後の展開

令和7年度からは、社会教育事業と連携して出前講座の行政編メニューに「部活動の地域移行」を追加し、依頼があった市民グループ等への説明の機会を拡充し、合意形成を図っていく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

